令和元年度　第４８回全日本中学校特別活動研究会・東京大会

新学習指導要領実施への新たな特別活動の展開

～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～

令和元年１１月１６日（土）

全日本中学校特別活動研究会

東京都中学校特別活動研究会

第４８回　全日本中学校特別活動研究会

東　京　大　会

大　会　主　題

新学習指導要領実施への
新たな特別活動の在り方

～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～

第４８回　全日本中学校特別活動研究会・東京大会

大　会　要　項

１　**趣　旨**　全日本中学校特別活動研究会は、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育むことを目指した研究を推進して、４８回目の研究大会を迎えた。

今大会では、「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～」を大会主題とし、特別活動の在り方を追究する。

２　**大会主題**　新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方
～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～

３　**期　日**　令和元年１１月１６日（土）

４　**主　催**　全日本中学校特別活動研究会・東京都中学校特別活動研究会

５　**後　援**　文部科学省　東京都教育委員会
狛江市教育委員会　全日本中学校長会
東京都中学校長会　東京都中学校教育研究会
日本特別活動学会

６　**会　場**　東京都狛江市立狛江第一中学校（体育館、普通教室　等）
〒201-0003　東京都狛江市和泉本町２－１５－１
小田急線「狛江」駅北口　小田急バス利用
２番→「成城学園前駅西口行き」→第一中学校下車徒歩２分
３番→「狛江営業所行き：一中経由」→第一中学校下車徒歩２分

7　時程・内容

９：００～　９：３０　受付

９：３０～１０：００　全体会【会場：体育館】

１０：００～１１：３０　　記念講演【会場：体育館】

講師：筑波大学　教育学類長

教授　藤田　晃之　先生

演題：「新学習指導要領における特別活動とキャリア教育について」

１１：３０～１２：００　　アトラクション

１２：００～１３：００　　昼食

１３：００～１３：３０　　受付

（１１：４５～１２：４５）　全国理事会【会議室】

１３：３０～１５：４５　　分科会発表・研究協議・指導講評・講演

第１分科会〈学級活動〉　　【会場：１－３教室】

第２分科会〈生徒会活動Ａ〉　【会場：１－４教室】

第３分科会〈生徒会活動Ｂ〉　【会場：１－５教室】

第４分科会〈学校行事〉　　【会場：１－６教室】

１５：４５～１６：００　　分科会ごとにまとめ・会場片付け

8　全体会式次第

令和元年１１月１６日（土）　９：３０～１０：００

会場：東京都狛江市立狛江第一中学校　体育館

(1) 開会のことば

(2) あいさつ

第４８回全日本中学校特別活動研究会

東京大会実行委員長　　青木由美子

全日本中学校特別活動研究会 会長　　上岡 祥邦

(3) 祝辞

東京都教職員研修センター　研修部長　石田　周　　様

狛江市教育委員会教育長　　有馬　守一　様

(4) 来賓紹介

(5) 基調提案 東村山市立東村山第五中学校　吉川 滋之

(6) 閉会のことば

★研究発表

分科会	発表都県	発表内容	発表者
第１分科会 学級活動 会場　１－３	東京都	「一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫」 ～主体的に役割を決め、互いの良さを認め合う学習過程を通して～	武蔵村山市立小中一貫校 大南学園第四中学校 教諭　栗原　美絵 練馬区立開進第三中学校 主任教諭　吉田　義和 足立区立六月中学校 教諭　真辺　草平
第２分科会 生徒会活動Ａ 会場　１－４	東京都	「生徒が創る生徒会活動の実現」	国分寺市立 第四中学校 主任教諭　髙山　俊徳
第３分科会 生徒会活動Ｂ 会場　１－５	東京都	「形骸化しがちな生徒会活動の活性化」	狛江市立 狛江第一中学校 主任教諭　河埜　亮一 教諭　北島　直翔 教諭　松尾紗綾香
第４分科会 学校行事 会場　１－６	京都府	「あたたかな心をもちながら、地域に貢献できる生徒を育成する学校行事」 ～春日丘フェスティバルを通して～	京都市立 春日丘中学校 教諭　藤原　有佐

指導助言者	運営委員（東京都）	
元東京農業大学 教授 現東京農業大学 非常勤講師 緑川　哲夫 先生	会場責任者 司　会	江戸川区立小松川第二中学校 主幹教諭　原　奈都子
	記　録	江戸川区立小松川第二中学校 教諭　鶴岡　友樹
東京女子体育大学・ 短期大学 教授 美谷島 正義 先生	会場責任者 司　会	中野区立第七中学校 副校長　田爪　一浩
	記　録	世田谷区立船橋希望中学校 教諭　藤井　拓也
東大和市教育委員会 佐々木　辰彦 先生	会場責任者 司　会	葛飾区立常磐中学校 主任教諭　大橋　えり
	記　録	中野区立第四中学校 教諭　横山　清貴
帝京大学教育学部長 教授 和田　孝　　先生	会場責任者 司　会	江戸川区立松江第六中学校 教諭　西本　静
	記　録	江戸川区立南葛西中学校 主任教諭　三枝　剛

目　　次

1　あいさつ

全日本中学校特別活動研究会 会長・・・・・・・・・・・・・・・・・ 上岡　祥邦　　7
第４８回全日本中学校特別活動研究会・東京大会 実行委員長・・ 青木　由美子　　8

2　お祝いの言葉

東京都教育長教育監
東京都教職員研修センター 所長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・宇田　剛　　様　　9
狛江市教育委員会 教育長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・有馬　守一　様　　10

3　基調提案

東村山市立東村山第五中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・吉川　滋之　　11

4　記念講演

筑波大学　教育学類長　教授・・・・・・・・・・・・・・・・・・・藤田　晃之　様　　13
演題「新学習指導要領における特別活動とキャリア教育について」

5　研究発表

◇第１分科会（学級活動）
武蔵村山市立小中一貫校　　16
大南学園第四中学校　　教　　諭　栗原　美絵
練馬区立開進第三中学校　　主任教諭　吉田　義和
足立区立六月中学校　　教　　諭　真辺　草平
「一人一人の自己有用感を高め、
自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫」
～主体的に役割を決め、実践し、互いの良さを認め合う学習過程を通して～

◇第２分科会（生徒会活動Ａ）
国分寺市立第四中学校　　主任教諭　髙山　俊徳　　26
「生徒が創る生徒会活動の実現」

◇第３分科会（生徒会活動Ｂ）
狛江市立狛江第一中学校　　主任教諭　河埜　亮一　　32
狛江市立狛江第一中学校　　教　　諭　松尾紗綾香
狛江市立狛江第一中学校　　教　　諭　北島　直翔
「形骸化しがちな生徒会活動の活性化」

◇第４分科会（学校行事）
京都市立春日丘中学校　　教　　諭　藤原　有佐　　39
「あたたかな心をもちながら、地域に貢献できる生徒を育成する学校行事」
～春日丘フェスティバルを通して～

6　資料

・全日本中学校特別活動研究大会の歩み　　48
・全日本中学校特別活動研究会会則　　50
・全日本中学校特別活動研究会理事一覧　　52
・第４８回全日本中学校特別活動研究会・東京大会実行委員一覧　　53

ごあいさつ

全日本中学校特別活動研究会
会長　上岡　祥邦
（足立区立第十二中学校）

第４８回全日本中学校特別活動研究会を関係各位のご厚意とご尽力により、東京大会として開催できますことを、心より感謝し、御礼申し上げます。本大会の開催にあたり、文部科学省、東京都教育委員会、狛江市教育委員会、東京都中学校教育研究会、全日本中学校長会、東京都中学校長会、日本特別活動学会の皆様には、温かいご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。特に本大会の会場を提供いただきました狛江市ならびに狛江市立狛江第一中学校の関係各位には深甚より感謝申し上げます。

さて、平成２９年３月に告示された新学習指導要領の移行期間も２年目となりました。特別活動においては、平成３０年度より新学習指導要領に示された内容で実施することとなり、すでに各校で実践されていることと思います。今回の改定におけるキーワードはいくつかありますが、そのひとつに「キャリア教育」をあげることができます。新学習指導要領総則において、児童・生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的･職業的自立に向けて必要な基盤となる資質･能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」について明示されました。これを受けて、中学校の学級活動の（３）が「学業と進路」から「一人一人のキャリア形成と自己実現」へ、また、小学校の学級活動と高等学校のホームルーム活動にも「一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設されました。

中央教育審議会の特別活動ワーキンググループにおいては、特別活動において育成すべき資質･能力を確実に育む観点から、キャリア教育の中核的な指導場面として特別活動が大きな役割を果たすべきであるとされ、児童･生徒自らのキャリア形成のために必要な汎用的能力を育てていく必要性が説かれました。そのために、小学校から高等学校までの特別活動を始めとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ（「キャリアパスポート」）的な教材を作成し、活用することが効果的では内科との提案がなされ、平成３１年３月、文部科学省から「キャリアパスポート」の例示資料が提示されました。

本大会においては、このキャリア教育について改めて学び合えることができるよう、筑波大学教育学類長の藤田晃之先生に記念講演をお願いいたしました。これまで同様、そのあとの分科会においては各校の実践事例を元に協議を行う構成となっております。本大会で得られたことを各都道府県・区市町村において、次世代を担うこどもたちの育成に生かしていただきますとともに、特別活動のネットワークが広がっていきますことを切に祈念いたします。

最後になりましたが、本大会に運営にあたられました実行委員の皆様、発表者、指導・助言をいただきました先生方、そして全国理事の皆様方のご厚情に感謝申し上げ、あいさつといたします。

第 48 回全日本中学校特別活動研究会・東京大会の開催にあたって

第 48 回全日本中学校特別活動研究会
東京大会実行委員長　青木　由美子
（小平市立小平第五中学校）

第 48 回全日本中学校特別活動研究会を東京都において開催できますことを厚く御礼申し上げます。本大会は昭和 47 年に第 1 回大会が東京都板橋区で開催され、今回で 48 回目、東京での開催は 15 回目となります。改訂された学習指導要領において特別活動の先行実施も 2 年目となります。このような中、東京で本研究大会を開催できますことは大きな喜びであります。

今回の大会の研究主題は、「新学習指導要領実施への新たな特別活動の展開」とし、副主題を「集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫」として、先行実施されている新学習指導要領における特別活動の指導について、研究を深めることができればと考えました。

新しい学習指導要領においては、その実施にあたって、育成を目指す資質・能力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」という 3 つの柱が示されるとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。特に、特別活動においては、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の 3 つが指導上の重要な視点として掲げられ、積極的に社会参画する力や話合い活動を通して合意形成や意思決定すること、役割分担して協力し合うことの重要性などが述べられています。また、日本の子供達の自尊感情の低さが指摘される中で、次代を担う子供達には、自分に自信をもたせ、将来への夢や希望の実現に向けて、生きる力の育成を図ることが大切であり、このことからもこれからの特別活動の役割を痛感しているところです。

そうした中、本大会には、筑波大学教育学類長教授　藤田晃之先生をお招きすることができました。新学習指導要領における特別活動の在り方について、特にキャリア教育に関するご講演をいただけることは、私たち特別活動の研究者にとって、大変貴重な機会であります。また、会場は狛江市立狛江第一中学校をお借りし、本校生徒による太鼓の発表をしていただくとともに、午後の分科会では 4 校の先生方からの実践発表の後、講師の先生方からご指導をいただきます。これらの内容を通して、私たちが日々感じている特別活動の課題を明確にするとともに今後の特別活動の展望について学べる機会となると信じております。

最後になりますが、本大会を迎えるにあたり、お忙しい中、記念講演の講師を快く引き受けてくださいました筑波大学教育学類長教授　藤田晃之先生、分科会講師の緑川哲夫先生、美谷島正義先生、佐々木辰彦先生、和田孝先生に深く感謝するとともに、会場をご提供いただきました吉田知弘校長先生を始め、文部科学省、東京都教育委員会、狛江市教育委員会、東京都中学校教育研究会、全日本中学校長会、東京都中学校長会、日本特別活動学会等、関係機関の皆様方に厚く御礼を申し上げ、開催にあたっての挨拶といたします。

祝　辞

東京都教育委員会教育監
東京都教職員研修センター所長
宇田　剛

第48回全日本中学校特別活動研究会東京大会が開催されますことを、心よりお祝い申し上げますとともに、これまで本会が中学校における特別活動の充実・発展に多大なる貢献をしてこられましたことに、深く敬意を表します。

さて、中学校新学習指導要領では、子供たちが、これからの時代に求められる力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。そして、その「深い学び」を実現するためには、各教科等の特質に応じ、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという「見方・考え方」を働かせることが重要となります。

また、特別活動では、集団や社会の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することが大切です。

これまで東京都教育委員会におきましても、授業研究や協議等を通して教科等の専門性と授業力の向上を図る「東京教師道場」や、各教科等に関する指導内容・方法等の実践的研究を行う「教育研究員」において、特別活動に関する部会を設定するなど、様々な取組を推進してまいりました。

このたび、本大会の研究主題を「『新学習指導要領実施への新たな特別活動の展開』～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～」と設定したことは、本研究会のこれまでの成果と課題を踏まえ、新学習指導要領の趣旨と教育実践をつなぐ、時宜を得た大変意義深いものです。各活動において身に付けるべき資質・能力は何か、どのような学習過程を経ることにより特別活動ならではの「見方・考え方」を働かせるのか等についても議論を深め、今後の特別活動の指導の在り方について具体的な御提案がなされるものと期待しています。本大会での成果を、各都道府県の研究会や所属校の先生方に周知していただければ幸いです。

結びに、ここにお集まりの皆様が、全国の中学校における特別活動の推進と発展のために一層御活躍されるとともに、本研究会のますますの御発展を心から祈念いたしまして、東京都教育委員会からの挨拶といたします。

お祝いの言葉

狛江市教育委員会
教育長　有馬　守一

第48回全日本中学校特別活動研究会東京大会の開催にあたり、狛江市教育委員会を代表いたしまして、お祝い申し上げます。また本大会が狛江市で開催されることにつきまして、大会関係者及び参加者の皆様を心から歓迎いたします。

特別活動において育む資質・能力は、これからの予測困難な社会をよりよく生きていく上で、重要性を増していると考えております。学級活動、生徒会活動、学校行事の中で、集団や個人の課題を見いだし解決するための方法や内容を話し合い、集団として「合意形成」を図り協力して実践したり、一人一人が自己の課題の解決方法について「意思決定」し、実践したりすることは、生徒の課題解決力や人間関係力を高め、学校及び社会での生活の充実と向上につながります。これらの実践の中で生徒が自信をもち、他者と協働し、課題解決を図っていくようになることが、AI の時代の中で、人間が持つ強みを発揮していくことでもあります。

中学校においては、令和３年度から新学習指導要領の全面実施となります。「授業改善」は、これまでも数多くの取組をされてきたところですが、今は「『主体的・対話的で深い学び』の実現」という共通テーマで、各学校等で取組が推進されております。その実現に向け、特に重要となるのが「学級経営の充実」であると考えております。学級は、生徒たちにとっての大切な一つの社会であり、生徒の学習や学校生活の基盤です。また、教師と生徒との間に育まれた信頼関係や生徒相互のよりよい人間関係は、意欲的に学習に取り組む態度や、自らの考えを広げ深める対話の促進につながります。すなわち特別活動の充実は、学級経営の土台であり、新学習指導要領が目指す学びの充実につながる学校教育のベースとなる領域であると考えられます。

さて、本大会の主題は「新学習指導要領実施への新たな特別活動の展開」、副題は「集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫」であると伺っております。本年５月、時代は「平成」から「令和」へと変わりました。時代に合った新しい特別活動が求められる一方、生徒のよりよい今と未来を築く特別活動の本質については変わりありません。今後も各地区、各学校において生徒、地域、学校の実態を踏まえた取組が推進されることを願っております。また、本大会において、各種の実践が広く共有されることを期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり御尽力をいただきました多くの先生方に感謝申し上げるとともに、全日本中学校特別活動研究会及び関係団体の益々の充実と発展を祈念いたしまして、狛江市教育委員会からのお祝いの言葉といたします。

基調提案
第 48 回　全日本中学校特別活動研究会　東京大会
主題

『新学習指導要領実施への新たな特別活動の展開』
～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～

主題設定の理由と本大会での重点

ますます多様化する予測困難な時代において、様々な背景をもつ国や人間どうしが異なる主張を行い、対立することが多い世の中になってきている。これからの社会を生きる子供たちが柔軟な寛容さや謙虚さをもち、多様な人々と協働して、主体的に人生を切り拓いていくための、よりよく生きる力の育成が教育現場に強く求められている。

世界が注目している日本の特別活動。新学習指導要領の全面実施（中学校では令和３年度）に向けて、特別活動ではこれまで大事にしてきたものをより大事にしていこうという考えのもと、教育活動の基盤を特別活動が担い、子供たちが中心となった学校生活の展開を図っていこうというねらいがある。そのような特別活動の役割や教育的な意義を理解し、我々は日々よりよい教育実践に努めていく必要がある。

新学習指導要領（特別活動）での改善の方向性として特に明示されていることとして、
○　「合意形成」と「意思決定」を含む学習過程の重視。
○　特別活動の視点を「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に整理。
　　これらの三つの視点を手掛かりに資質・能力を設定する。
○　中学校の学校教育全体での「キャリア教育」の要（横をつなぐ）
　　小学校→中学校→高等学校へとつながる系統的な「キャリア教育」（縦をつなぐ）

という内容が挙げられる。本研究会でも、新学習指導要領で示された三つの視点につながる力を育てていくことが、特別活動の果たす役割をより明確にし、新たな展開につなげられると考えている。近年では東京都の教育研究員とも連携し、取組内容をさらに深めるための検証や報告会を行ったり、生徒会長サミットを運営し、子供たちによる全体会や分科会、顧問教師での協議会を通して各校での取組報告や意見交換を行うことにより、「人間関係形成（よりよい仲間づくり）」「社会参画（よりよい社会づくり）」「自己実現（よりよい自分づくり）」の特別活動の三つの視点につながる実践を積み重ねている。

本大会では、主題を『新学習指導要領実施への新たな特別活動の展開』とし、副主題を『集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫』とした。新学習指導要領の実施に向け、これまで本研究会で長年にわたり進めてきた豊かな人間関係づくりをもとに、昨年度の東京大会での実践も踏まえ、新たな特別活動の展開を目指すこととした。

特別活動の特質ともいえる自主的、実践的な集団活動、多様な他者と協働すること、集団生活や人間関係での課題を見いだし、解決すること等については、本研究会でも学級活動、生徒会活動、学校行事の実践を通して検証を重ねてきた。以下は、近年の特別活動を通した実践で大切にしている基本の型である。

○　ＰＤＣＡサイクルをもとにした、事前から事後までの学習過程の重視。
○　話合い活動の工夫。
　・４人組を基本とした少人数での取組。（自分の意見を出しやすくする工夫）
　・ホワイトボードや付箋の活用。（効率的な意見交換。思考の可視化や構造化。）
　・役割や責任をもたせた活動。（ジグソー法、ワールド・カフェ形式などの活用）
　・意見交流、発表からの合意形成や意思決定。（小学校での手法もふまえていく）
○　集団活動を通して自己有用感を高めるための工夫（自己評価や相互評価）。
○　リーダーやフォロワーの育成。居場所づくりと絆づくり。

学校はひとつの社会であり、集団や社会の一員として「なすことによって学ぶ」活動を通して、様々な議題や課題を通して話合い活動を行い、自主的、実践的に解決していくことが、実社会で生きていくための確かな資質や能力になってくるといえる。新学習指導要領の全面実施に向けて、中学校で特別活動をどのように具体的に展開すればよいか検証を積み重ね、多くの教育現場で有意義な実践につなげていくことがきるよう、本大会でも学級活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれの実践報告を通して情報発信していく。

特に特別活動を要としたキャリア教育の充実は、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となる、各教科と往還的な関係にあるといえる。そのため、自分たちで考え、決定し、その後の取組に結びつけられるような自治的活動につながるよう、指導法についても今後、追求していく必要がある。

特別活動において、教師は、生徒の自主的、実践的な活動を助け、生徒自身による創意工夫を引き出していけるよう指導を行っていくことが大切である。教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とした指導をもとに、生徒自身が望ましい人間関係を築くことができるようになるといえる。課題を生徒と共に考え、共に歩もうとする教師の公平かつ受容的な姿勢や態度により、生徒一人一人がより大きく輝いていくことができる。そして、特別活動を通して養われる力は、将来的に社会生活の中心となる家庭や職場、地域社会での様々な行事等で、主体的に関わろうとする態度や自己実現を図るために必要な力、様々な人間関係で構成される集団の中で所属感や連帯感を深めながら、ひとつの目標に向かって取り組むための力として、少しずつ着実に育まれていくことにつながる。

特別活動の新たな展開のためには、ひとつの学級での実践だけでなく、学年、学校が一丸となり、特別活動の本質をとらえた指導や改善を行っていくことが求められてくる。その動きが学校や地域から日本全体へと大きな広がりとなり、特別活動のさらなる質的な向上と発展につながることを期待し、本大会でも皆様と共に、熱意あふれる充実した学び合いを行っていきたい。

◇記念講演

「新学習指導要領における
特別活動とキャリア教育について」

筑波大学　教育学類長 教授

藤田　晃之　先生

＜経　歴＞

1988 年３月　筑波大学第二学群人間学類（教育学主専攻）卒業
1993 年３月　筑波大学大学院博士課程教育学研究科　単位取得退学
1993 年４月　中央学院大学商学部（教職課程）講師　のちに助教授
1998 年４月　筑波大学教育学系　講師　のちに助教授
2004 年４月　筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科　助教授　のちに准教授
2008 年４月　文部科学省　国立教育政策研究所　生徒指導・進路指導研究センター　統括研究官
〈併任〉　同省　初等中等教育局　児童生徒課　生徒指導調査官（キャリア教育担当）
〈併任〉　同省　初等中等教育局　教育課程課　教科調査官（特別活動担当）
2013 年４月より現職

研　究　発　表

第１分科会（学級活動）

「一人一人の自己有用感を高め、
自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫」
～主体的に役割を決め、実践し、互いの良さを認め合う
学習過程を通して～

武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校　教　諭　栗原　美絵
練馬区立開進第三中学校　主任教諭　吉田　義和
足立区立六月中学校　教　諭　真辺　草平

第２分科会（生徒会活動Ａ）

「生徒が創る生徒会活動の実現」

国分寺市立第四中学校　主任教諭　髙山　俊徳

第３分科会（生徒会活動Ｂ）

「形骸化しがちな生徒会活動の活性化」

狛江市立狛江第一中学校　主任教諭　河埜　亮一
教　諭　松尾紗綾香
教　諭　北島　直翔

第４分科会（学校行事）

あたたかな心を持ちながら，
地域に貢献できる生徒を育成する特別活動
～春日丘フェスティバルを通して～

京都市立春日丘中学校　教　諭　藤原　有佐

第一分科会　学級活動

一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫
～主体的に役割を決め、実践し、互いのよさを認め合う学習過程を通して～

平成 29 年度東京都教育研究員
練馬区立開進第三中学校　主任教諭　吉田　義和
足立区立六月中学校　教諭　真辺　草平
東村山市立東村山第二中学校　主任教諭　小野　博史
武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校　教諭　栗原　美絵

１．研究主題設定の理由

新中学校学習指導要領特別活動（平成２９年３月）には特別活動の目標として、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、生徒の資質・能力を育成することが示されている。その資質・能力は、中学校学習指導要領特別活動解説（平成２９年７月）において「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点で整理されており、それらを育むために自主的、実践的な活動を重視することや、生徒がどのような学びの過程を経るのか明確にすることが求められている。

これに基づき、特に重視して育成すべき資質・能力と、育成の手だてを考えるために、研究員の所属校の生徒を対象に実態調査を行った。その結果、生徒には人の役に立ちたいという思いはあるものの、実際に役に立っているという実感が薄く、自己有用感が低い傾向にあることが明らかになった。

これらの生徒は、係や当番活動において、日常的に学級のために活動しているが、他者からの評価や目標に向けて創意工夫をする機会がないと、「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という実感に結び付きにくいことが分かった。また、自己有用感は、集団に貢献しようとする意欲の基盤となるものであり、自主的・実践的な態度に密接に関わってくるものである。そこで、自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てるためには、生徒一人一人が主体的に自分のよさを生かした役割を決め、創意工夫して実践し、互いの実践を認め合う学習過程を設定することが有効であろうと考えた。さらに、生徒の資質・能力を高めるには、このような学習過程を繰り返し設けることが重要であると考え、様々な集団活動の中で、特に生徒が主体的に活動する機会が多い学級活動で研究を行うこととした。

平成２９年度東京都教育研究員の共通テーマは、「主体的・対話的で深い学び」の実現である。新中学校学習指導要領解説特別活動編（平成２９年７月）では、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現は、生徒が自主的・実践的に活動する「学習過程において授業や指導の工夫改善をすることで、一連の活動過程の中での質の高い学びを実現することである」と述べられている。このことから、特別活動が重視する「実践」を、「問題の発見・確認」、「解決方法の話合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった、一連の活動と捉え、学習過程全体を視野に入れて研究を進めていくことにした。そして、教師がこの学習過程を様々な活動において計画的に設定することで、生徒の資質・能力を継続的に育成できると考えた。

以上のことから、研究主題を「一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫～主体的に役割を決め、実践し、互いのよさを認め合う学習過程を通して～」とした。

２．研究の内容

（１）　指導の流れと生徒の活動

平成 25 年度の東京都教育研究員が開発した「学級活動に関するアンケート」の質問項目を改訂し、20 項目からなるアンケートを作成し、検証授業の事前と事後に、生徒の実態把握と成果の検証を行った。特別活動において育成すべき資質・能力の三つの視点と関連付けて分析した。「人間関係形成」を７・10・11・12・14・15 の質問項目、「社会参画」を１・２・３・４・５・６・13 の質問項目、「自己実現」を８・９・16・17・18・19・20 の質問項目と関連付けている。

学級活動に関するアンケート

これは学級活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを一つ選び、数字に〇を付けてください。

4　あてはまる　3　どちらかといえばあてはまる　2　どちらかといえばあてはまらない　1　あてはまらない

1	私は学級のよいところと課題を理解している。	4　3　2　1
2	私は学級の課題解決（目標達成）に向けて行動したいと思う。	4　3　2　1
3	私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。	4　3　2　1
4	集団で活動するときに、人任せにしてしまうことがある。	4　3　2　1
5	私は学級の課題解決（目標達成）のために行動している。	4　3　2　1
6	私は学級の課題解決（目標達成）のために友達と協力して取り組んでいる。	4　3　2　1
7	自分の学級は居心地がよい。	4　3　2　1
8	学級活動の時間で、自分の意見や考えを紙に書くことができる。	4　3　2　1
9	話合い活動で自分の意見や考えを班員に伝えることができる。	4　3　2　1
10	相手の意見や考えが違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。	4　3　2　1
11	友達と意見や考えが違っていても、自分が正しいと思うことを主張できる。	4　3　2　1
12	私は友達の意見を生かしながら話合い活動に取り組んでいる。	4　3　2　1
13	私は話合い活動に積極的に参加している。	4　3　2　1
14	友達は私のよいところを認めてくれている。	4　3　2　1
15	私は友達のよいところを見付けようとしている。	4　3　2　1
16	私は集団活動を行う上での自分の課題を理解している。	4　3　2　1
	理解している自分の課題を書いてください。（自由記述）	
17	私は集団活動を通して、自分の成長を感じる。	4　3　2　1
	自分の成長を感じるところを書いてください。（自由記述）	
18	私は学級の役に立っていると思う。	4　3　2　1
19	私には人の役に立てる力があると思う。	4　3　2　1
20	私は人のために力を尽くしたい。	4　3　2　1

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

検証前に実施した、「学級活動に関するアンケート」の結果を分析し、本研究において生徒に身に付けさせたい力・目指す生徒像を定めた。

身に付けさせたい力・目指す生徒像	
「社会参画」	・集団の課題解決に向けて、協働して主体的に実践する生徒
「自己実現」	・集団の課題解決に向けて、自らのよさを生かして実践する生徒
「人間関係形成」	・集団の課題解決に向けた実践の中で、互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする生徒

係活動で自分のよさを発揮できたことを基にして、合唱コンクールに向けて、自分たちで決めた学級目標を達成するために係をつくり、自分のよさを生かせる係に所属して活動する。4 回の検証授業を関連させて、相互評価と自己評価の両方の視点から互いのよさを認め合い、自己有用感を高めていく。

時期	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
7月中旬	◇【検証授業第１回】 ・「１学期係活動の振り返り～係活動の目標を達成できているか確かめよう。～」	・事前に係活動についてのアンケート調査を行い、自己及び他生徒の活動について振り返らせる。その際、課題とよくできた点を書き、互いのよさを認め合うことに意識を向かせ、次の係活動の目標達成に向けて意欲的に取り組めるようにする。	【関心・意欲・態度】 ・仲間からの評価を受けて、今後の係活動について、自分のよさを生かした目標をもって主体的に取り組もうとしている。 [観察][ワークシート]
9月中旬	◇【検証授業第２回】 ・「合唱コンクールに向けて学級目標と係を決めよう。」	・事前に合唱コンクールに向けた学級目標と係についてアンケート調査を行う。企画会議（企画委員５，６名による会議）でアンケート結果をまとめる。 ・アンケート結果を基に、学級目標を決定し、その目標を達成するために、係活動で自分のよさを生かしてそれぞれが行いたい具体策を決めて発表する。	【知識・理解】 ・学級目標の達成のために、自分の係でできることを話し合うことの意義や話合いのまとめ方を理解している。[観察] 【思考・判断・実践】 ・自分たちで考えた学級目標と係について、その理由を分かりやすく伝えている。 [観察][ワークシート]
10月中旬	◇【検証授業第３回】 ・「合唱コンクール係活動中間の振り返り～互いのよさを認め合い、改善策を考えよう。～」	・中間アンケートを行い、自己及び他の生徒の実践について振り返らせる。その際、課題と共に自他のよくできた点を書き、互いのよさを認め合い、次の活動に意欲的に取り組めるようにする。 ・課題については具体的な改善策が出るよう、事前に考えさせる。	【思考・判断・実践】 ・学級目標の達成に向けて、係活動の課題を基にした改善策を話し合って決め、その理由を分かりやすく伝えている。 ［観察］［ワークシート］

10月下旬	◇【検証授業第４回】 ・「合唱コンクールを振り返って～互いのよさを認め合い、今後の生活につなげよう。～」	・自己及び他の生徒の実践について振り返らせる。それを基にして、互いのよさを認め合うとともに、これからの自己の課題を考えさせる。	【関心・意欲・態度】 ・集団の向上に関わることに関心をもち、合唱コンクールを通しての取組の成果や、今回の経験を今後の集団生活へ生かそうとしている。 ［観察］［ワークシート］

（２）指導案

【検証授業　第１回】

①　本時の活動のテーマ

「一学期係活動の振り返り　～係活動の目的を達成できているか確かめよう。～」

（内容項目：（１）　ア　学級や学校における諸問題の解決）

②　本時のねらい

学級内のアンケート結果から改善が必要な点を分析し、学級集団における個人の役割や、一人一人の課題を考え、学級をよりよくするための自主的、実践的な態度を育てるとともに、うまくできた点、できなかった点を互いに認め合い、協力して改善していこうとする望ましい人間関係を育てる。

③　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始5分	1　学級委員の話 （目的や進め方） 「係活動の改善」 2　担任の話 （活動への期待と補足）	・必要な掲示物や配布物を事前にまとめておく。 ・活動意欲を喚起するよう助言する。	
活動の展開35分	3　アンケート結果の確認 4　係ごとの話合い ・うまくできなかった点について意見交換する。 ・うまくできなかった原因を整理し、改善策を考え、掲示用の紙に記入する。 5　各係の発表と意見交流 ・机を元に戻す。 ・各係で決定した改善策を発表し合う。 ・提案やアドバイスを述べる。	・アンケート結果を配布する。 ・この結果に基づき、話合い活動と発表を行うよう、学級委員から望ましい係活動への改善を目指せるように説明する。 ・机を係ごとの小集団にし、話合いが深まるようにする。 ・課題が指摘されていない場合でも、工夫の余地について検討させる。 ・話合いが円滑に進むよう、原因には「計画性」「仕事分担」「責任感や意欲」「人間関係」「用具」などの要素があることを学級委員から事前に説明する。 ・建設的な意見交流となるようにする。 ・改善策を修正する必要があれば、適宜助言する。	【関心・意欲・態度】 ・仲間からの評価を受けて、今後の係活動について自分のよさを生かした目標をもって主体的に取り組もうとしている。 ［観察］ ［ワークシート］

まとめの活動10分	6　学級委員のまとめ 7　担任の話 ・活動についての評価を聞く。 8　振り返りシートへの記入	・係で決めた改善策を実践できるよう具体的な助言を行う。	

④　資料等

アンケート結果（１学期の係活動）

国語係	（氏名略）	毎回先生に聞きに行くことができた。連絡黒板が遅くなることがあった。
	（氏名略）	忘れずに仕事ができた。分担が曖昧で、一人で仕事をすることがあった。

・とてもきちんとやっていた（黒板記入を忘れず、提出物の回収もきちんとしていた）（多数）　・授業の前日以外でも、提出物やスピーチてすろなど必要があれば連絡してくれた（多数）　・黒板記入が早かった　・いつも細かい点まで連絡してくれて助かった（多数）　・提出物の回収を二人で手分けしてやっていてスピーディーだった（４名）　・声が大きくて助かった　・授業終了時にすぐに持ち物を聞いていた（４名）　・声が大きかった

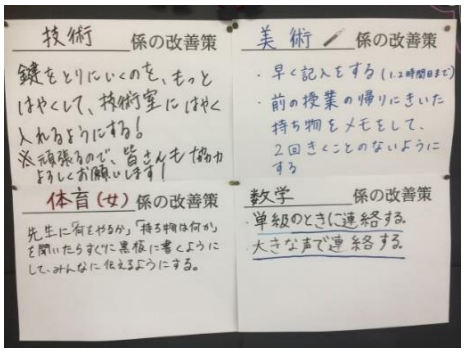
・声が聞こえない時があった

数学係	（氏名略）	リピート等の配布の際にもたついてしまう時があった。
	（氏名略）	テスト後の授業の持ち物を聞き忘れてしまった。

・提出物や持ち物を正確に連絡できていた（多数）　・普段とは違う持ち物をしっかり記入してくれた（多数）　・提出物の回収を素早くやっていた　・不足なし、凄いと思う　・黒板記入が早かった（２名）　・少人数か単級か明記していた　・声が大きくて助かった

・少人数か単級かも連絡して欲しい（３名）　・時々声が聞こえない時があった

アンケート結果抜粋



授業後の掲示

【検証授業　第２回】

①　本時の活動のテーマ

「合唱コンクールに向けて学級目標と係を決めよう。」

（内容項目：（１）　ア　学級や学校における諸問題の解決）

②　本時のねらい

学級で事前に行ったアンケートの結果から作成された合唱コンクールに向けた学級目標達成のために、主体的な係活動や話合いによって課題解決ができる、自主的・実践的な態度を育てる。

③　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始2分	1　本時の活動についての説明	・必要な掲示物や配布物を事前にまとめる。 ・実行委員が活動の説明をする。	
活動の展開①5分	2　アンケート結果の配布・確認 3　学級目標の発表	・アンケート結果を配布する。 ・実行委員から、アンケート結果の説明を行い、生徒の意志を確認して学級目標を決定する。 ・主体的に話し合う理由が目標達成のためであることを説明し、活動の目的を確認させる。	

活動の展開②20分	4　話合い（チーム・係ごとに学級目標達成のためにできること）	・実行委員が進行する。 ・事前アンケートの結果を分類して企画委員がつくった三つのチームで話し合う。 ・チームの話合いが更に深まるように、チームを5、6人で編成する係に分け、話し合わせる。 ・課題を受け、係でできる具体的な方策を検討させる。 ・話合いで係の案が出ない場合を想定し、企画委員が事前に検討して案を考えておく。 ・ホワイトボードを用意し、係員全員で書き込めるようにすることで、出てきた意見を集約しやすくする。	【知識・理解】 ・学級目標の達成のために、自分の係でできることを話し合うことの意義や話合いのまとめ方を理解している。 ［観察］
活動の展開③20分	5　各係の発表と意見交流 ・各係で決定した案の発表と意見交流	・話合いの結果を発表用ワークシートに記入し、生徒自身で他係への提案やお願いしたことを述べ、学級目標達成に向けて意見交流を図る。 ・建設的な意見交流となるよう留意する。 ・提案を改善する必要があれば適宜助言する。	【思考・判断・実践】 ・自分たちで考えた学級目標と係について、その理由を分かりやすく伝えようとしている。 ［観察］ ［ワークシート］
まとめの活動3分	6　本時の振り返りと今後の進行を確認 7　担任の話 ・活動についての評価を聞く。	・決定事項を主体的に実践できるよう、具体的な助言を行う。	

④　資料等

合唱コンクールに向けた学級目標の掲示

チーム名	チームワーク	実技	練習計画・その他
係名	注意 まとめ 挨拶（朝） （帰り） 声かけ 一言	発声サポート 音程サポート	練習日程 企画連絡 準備片付

話合い活動によって決まったチーム・係活動の内容など

【検証授業　第３回】

①　本時の活動のテーマ

「合唱コンクール係活動 中間の振り返り～互いのよさを認め合い、改善策を考えよう。～」

（内容項目：（１）イ　「学級内の組織作りや役割の自覚」）

②　本時のねらい

学級目標を達成するための係活動を振り返り、成果（自分のよさを生かせた点や仲間が各自よさを生かせていた点）と課題（よさを取り入れた点）を認識し、改善策（それぞれのよさを取り入れた活動）を話し合い、それぞれのよさを生かした方策を決定することを通して、自己有用感を高めるとともに、目標に向かって自主的・実践的な態度を育む。

③　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始5分	1　本時の活動を理解する。	・実行委員に活動の目的や流れを説明させる。	
活動の展開35分	2　グループで話し合う。 (1)各係で活動の改善策を考える。 (2)各係の提案についてチームで話し合う。 (3)各係で活動の改善策をまとめる。 3　決定したことを学級全体に発表する。	・事前に実施した中間アンケートの結果に基づいて、各係で改善策を考える。意見が出し合えない場合、「計画性」「役割分担」「連絡や相談」「積極性」「用具」など、細かく改善できることを考えるよう、実行委員に説明させる。 ・各係の提案についてチームで意見を出し合うことで、よりよい具体策が出るようにする。 ・チームでの話合いでの意見交換を経て決定した改善策を発表用の画用紙に記入する。また、全員が発表に参加するための役割分担をさせる。 ・各係で決定した改善策について、学級全体で意見交換を行い、共通理解を図る。	【思考・判断・実践】 ・学級目標の達成に向けて、係活動の課題を基にした改善策を話し合って決め、その理由を分かりやすく伝えている。 ［観察］［ワークシート］
まとめの活動10分	4　本時の活動を振り返り、今後の活動を確認する。	・本時の活動を自己評価するとともに、仲間のよかった点を振り返り用のワークシートに記入する。	

④　資料等

合唱コンクール係活動　中間アンケート

係名	担当		よかった点（Thank you!）提案（Please!）を書こう
△△△	○○	▼▼	□□□□□□□□□□□
◎◎◎	××	◇◇	▲▲▲▲▲▲▲▲▲

合唱コンクール係活動　中間アンケート結果

準備・計画チーム		
目標係	担当者のコメント	皆が分かるように書く。実行委員が言ったことなども書こうと思う。
		目標がなかなか思いつかない時があった。

・目標が明確で良い。
・その日にあった目標が立てられている。
・一つ一つ乗り越えていく感じでよい。
・毎日目標を見て「今日はここを頑張ろう」「ここを意識しよう」と思える。
・黒板に掲示するとみんながもっと意識すると思う。
・朝学活で発表したらさらによいと思う。
・達成度などをつけてもよいと思う。

アンケート調査の結果を基に、活動内容を改善

合唱コンクール大成功プロジェクト

チーム名 準備・計画チーム	係名 目標係
担当者	
活動内容 ・毎回の練習の目標を考えてホワイトボードに書く。	
クラスのみんなにお願いしたいこと ・目標を達成できるように頑張ろう！	

合唱コンクール大成功プロジェクト（中間の振り返り）

チーム名 準備・計画チーム	係名 目標係
担当者	
活動内容（改善した具体策） ・黒板の端に掲示する ・朝練習または朝学活で発表する ・達成度を書く（終学活で手を挙げてもらう）	
クラスのみんなにお願いしたいこと ・終学活で達成度を確認するので手を挙げてください	

【検証授業　第４回】

①　本時の活動のテーマ

「合唱コンクールを振り返って　～互いのよさを認め合い､今後の生活につなげよう｡～」

（内容項目：（１）　イ　「学級内の組織づくりや役割の自覚」）

②　本時のねらい

学級目標を達成するために取り組んだ係活動を振り返り、成果（自分のよさを生かせた点や仲間が各自のよさを生かせていた点）を話し合い、発表することを通して、自己有用感を高める。また、自己の活動を振り返らせ、これからの集団生活にどう生かしていくか考えさせ、今後の学級活動へ主体的に取り組む姿勢を育む。

③　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始2分	1　本時の活動について ・本時の活動の説明をする。	・必要な掲示物や配布物を事前にまとめる。 ・実行委員に活動の目的や流れを説明させる。	
活動の展開44分	2　チームごとに係活動の相互評価 3　係ごとの振り返り 4　発表 5　個人での振り返り	・付せんを用いて、互いの係活動についての評価をホワイトボードに貼っていく。 ・評価を見て、各係の活動を振り返らせ、話し合いによって、互いのよさを生かしながら取り組んだことについて、よかったことや、反省点､学んだことをまとめさせる。 ・決定した内容を発表用の用紙に記入する。また、全員が発表に参加するための役割分担をさせる。 ・全員が発表を行う。 ・アンケート用紙に、これまでの活動を個人で振り返らせて記入させる。	【関心・意欲・態度】 ・集団の向上に関わることに関心をもち、合唱コンクールを通しての取組の成果や、今回の経験を今後の集団生活へ生かそうとしている。 ［観察］［ワークシート］
まとめの活動4分	6　これまでの活動の振り返りと今後の学級への思い 7　担任の話 ・活動についての評価を聞く。	・これまでの活動を実行委員が総括し、今後の学級活動の在り方などを、実行委員を通して得た経験を基に発表する。	

④　資料等

合唱コンクール大成功プロジェクト

チーム名：歌づくりチーム　　係名：音符係

担当者

係活動を振り返って（良かった点や反省点）
楽譜に記号などしっかりかけた。
笑顔や姿勢のこともかけばよかった。
書くだけではなく、声を出して、説明すればよかった。
みんな、書いた記号にしたがって歌ってくれた。

係活動を通して学んだこと
協力、団結力が大事なことがわかった。
しっかりみんなが楽譜をみてくれて、実行してくれた。
やる気などが伝わった。

係から皆へ一言
みんなありがとうございました。
笑顔で歌ってくれたり、記号通りに歌ってくれてありがとう。

振り返りシート　　1年1組　　番　氏名

合唱コンクール全体を通して

【自己評価】　　↓○で囲もう

1 合唱コンクールへの取り組みは、自分の成長につながった。・・・・・・・ A　B　C　D

2 合唱コンクールへの取り組みは、クラスの成長につながった。・・・・・・ A　B　C　D

3 合唱コンクールを通して、学んだことがたくさんあると思います。
今後の生活に生かせることは何かありますか。

これからの授業で発言をしたり、静かに授業をうけたり、いろんなところにいかせると思います。また、今回努力したり協力したりする、心がけを部活動、クラブチームなどに成長を発揮できると思います。

４．研究の成果

（１）集団の中で自分が所属する小集団を他者から指定されるのではなく、生徒自ら選択することで、当該小集団の役割や自分の責務を遂行しようとする意識を高めることができた。

（２）生徒一人一人の活動内容を自己評価するとともに、生徒間での相互評価も行うことで自分が学級の形成者であることを自覚するだけでなく、自分の活動を肯定的に捉え、自分のよさに気付くことにつながった。

（３）生徒が自分たちのよさをより生かすためには、自ら立てた目標に向かって努力し、設定された区切りにおいて個人や集団の達成度を評価し、目標の修正や手立ての工夫を行う学習過程（概略を以下に記載する）を構築することに効果が見られた。

【学級活動における学習過程】
①問題の発見・確認　②解決方法の話合い　③解決方法の決定　④決めたことの実践　⑤振り返り

（４）話合い活動を行うために、ホワイトボードや付せんを使用させたことで、考えが可視化され、意見の積み上げや集約へとつなげることができた。また、発表が得意な生徒、苦手な生徒、聞くことが得意な生徒、苦手な生徒と様々な生徒がいる中で、発表内容を可視化できる道具を使ったことは全員が発表に集中しやすくすることができた。

５．研究の課題

（１）身に付けさせたい力、目指す生徒像の「自己実現」において「自らのよさを生かして実践すること」を設定したが、生徒が学級活動の中でどのように「自分のよさを生かすのか」、また、生徒が「自分のよさを生かして活動しているか」を授業実践で十分に検証することができなかった。今後の授業実践で、具体的な検証方法を探る必要がある。

（２）生徒が所属するそれぞれの係活動のよさを認め合うことはできたが、生徒個人のよさを学級全体で認め合うまでには至らなかった。「あなたのここがよい」と、生徒一人一人が自分のよさをつかみ、生かして、相互に認め合う学級活動を平行して取り組ませることで、新中学校学習指導要領特別活動（平成２９年３月）の目標に近づくことが課題である。

（３）今回の研究は日頃の係活動と合唱コンクールを題材として話合いを実施したが、一連の検証改善サイクルを学校の他の活動や行事等にも関連付けることが大切である。そのため、教員間の情報共有を密にし、各活動や行事を単独の取組として捉えることなく、各活動や行事に関わる資質・能力の育成を横断的に捉え、生徒の指導を組織的・計画的に行うことが大切である。

６．研究のまとめ

教育研究員の所属校の生徒は、学級全員が自分の興味関心やよさを生かせる係活動を受けもつことで、積極的に係活動に参加し、話合い活動では互いを肯定的に評価することで他者理解が深まっていった。これらの経験から人の役に立ったことを実感することができ、自己有用感を高めていった。

生徒は学校生活において、様々な活動を通して学級に貢献しており、仲間からも十分評価されているが、そのことを生徒自身が知ることのできる機会が少ない。自己有用感を高めるためにも、自他のよさを認め合い、互いを尊重し協働する体験ができる学級活動を充実させることが重要であると考える。

第二分科会　生徒会活動

「生徒が創る生徒会活動の実現」

国分寺市立第四中学校　主任教諭　髙山俊徳

１　主題設定の理由

新学習指導要領の特別活動の目標に、「集団や自己の生活，人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。」とされている。このことから、望ましい集団活動を通した活動において、生徒が自ら問題を発見し、解決する問題解決力や、集団の関わりの中から人間関係を築く力を育てることが重要であると考える。

本校の生徒は、運動会や合唱コンクールなど、行事を成功させようという意欲のある生徒達が多い。学習面においても、努力する生徒が非常に多い。その反面、決定事項には従い、前向きに活動をこなしていくことはできるが、自分たちで計画を立て、企画・運営していくことは不得手である。

そこで、生徒会活動において、生徒自ら問題を発見し、解決する問題解決力や、集団の関わりの中から人間関係を築く力を育てるために、生徒が自主的に生徒会活動を創ろうと思うような研究を進めていくに至った。

２　実践の概要

（１）「置き勉問題」について

新学習指導要領の生徒会活動の内容において、生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形成を図り実践することが大切だと明記されている。そこで、自ら学校を変えられると思わせられるようにするため、「置き勉問題」について、生徒会役員と考えることから始めた。最初に行ったのは、全校生徒に生徒会役員がアンケートを実施し、結果は以下の通りだった。

- 毎日重い荷物を持って、登下校するのは大変。
- 持ち帰っても、一部の教科しか家庭学習をしていない。
- 部活動の道具と勉強の道具を両方持って登校するのは、つらい。
- なぜ置き勉をしてはいけないのか分からない。
- 生活委員の放課後置き勉チェックは、時間が掛かり負担が大きい。

次に、「なぜ置き勉をしてはいけないのか」ということを、生徒会朝礼を利用して全校討議した。その中で出された意見は、①家庭学習のため、②教室整備のため、という点が挙げられた。さらに、解決策も討議した結果、生徒一人ひとりが、持ち帰る勉強道具をよく考え、家庭学習する習慣を身につける必要がある。教室整備に、全校生徒が心がけ、整然とした教室環境にする必要がある。という意見が挙げられた。これらの意見を元に、生徒会役員が「置き勉のルール」を考え、生徒会朝礼を利用して再度提案した。提案内容は、以下の５つである。

①ロッカーに「整然」と置ける範囲内にする。
②置くものは、家庭学習を踏まえて個人判断とする。
③置いてよいものは、必ず記名してあるもの。
④机の中、横のフックには、物を置かない。（清掃時、机運びが重くなるから）
⑤体育着や水着を置いていくのは禁止。（トラブル防止のため）

生徒会役員の５つの提案に対して、家庭学習をしない生徒はさらにしなくなってしまうのではないかという意見が挙がったが、宿題があるときには、教科係が、持って帰るべきものを発表したり、各自が事前に家庭学習するものを計画し、勉強道具を持ち帰ったりすれば良いということになった。こうして「置き勉問題」は、生徒会の提案によって、置き勉しても良い方向になった。置き勉のルールを全校生徒全員が守ることで、新しいルールを使えるようになり、全校生徒の中で、生徒会に言えば学校を変えてくれる、自分達で学校は創ることができるという意識を高めることができた。

【現在のロッカーの様子】

【バックを置く工夫】

（２）あいさつコンクールについて

これまで､本校では生徒会主体で､あいさつ運動を何十年間も伝統として実施してきた。目的として、①あいさつをする習慣を身につけ、生徒自身によって明るい学校を築いていくという意識をもたせる。②生徒自らが進んであいさつをすることで四中の伝統であるあいさつを強化する。③学年を越えてあいさつができるようにする。ということであった。あいさつ運動の方法としては、生徒会役員と各委員長が協力し、校門に並び、登校してきた生徒に元気にあいさつをしていく方法であった｡年度によっては､ボランティアを募り、誰でもあいさつ運動に参加しても良いとしたこともあった。その時には、校門に 50 人以上が並ぶ日もあった。しかし、目的が達成できているかというと、あいさつ運動を実施しているメンバーも、全校生徒もあまり実感するまでには至っていなかった。また、登校する生徒の中には、大勢の人がいて、あいさつがしづらい、登校の妨げになっている、あいさつ運動がマンネリ化している等の意見があった。

【これまでのあいさつ運動の様子】

そこで、生徒会役員が考え、せっかく合唱コンクールなどのコンクールということに熱心な学校なのだから、「あいさつコンクール」を実施してみてはどうかという提案がなされた。方法としては、以下の３点である。

①生徒会役員が、各クラス１名審査員を無作為に抽出し、審査員によって行う。
②審査員にあいさつをしたポイントを集計する。
③各学年で、成績上位クラスに全校朝礼で表彰する。

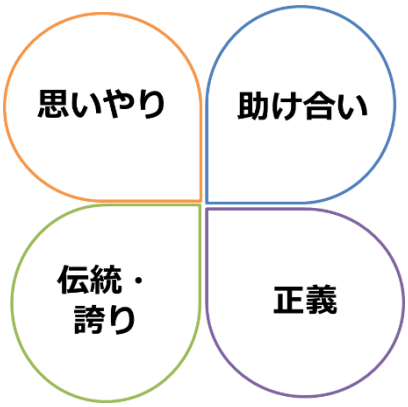
審査員があいさつを評価するのは、①目を見てあいさつをする。②適切な声の大きさであいさつをする。小さい声の場合は×。③笑顔であいさつをする。の３項目が全部できて１ポイントとし、一つでもできていなければ０ポイントとした。また、校章・クラス章をつけていない場合は、審査員が判断できないため、ポイントには入らないとした。そして、学年ごとにポイントが一番高かったクラスを優秀賞として表彰した。

成果として、これまでの「あいさつ運動」から「あいさつコンクール」にしたことで、誰が審査員か分からないので、学年を越えて活発にあいさつができるようになった。さらに、コンクール形式だったので、学校全体で盛り上がりながら取り組めていた。

しかし課題としては、恒常的な活動ではないため、「あいさつコンクール」後は、少しずつ生徒のあいさつをする意識が低くなっていってしまった。今後は、半期に１回ずつ実践していくことで、あいさつをする意識をさらに高めていきたい。

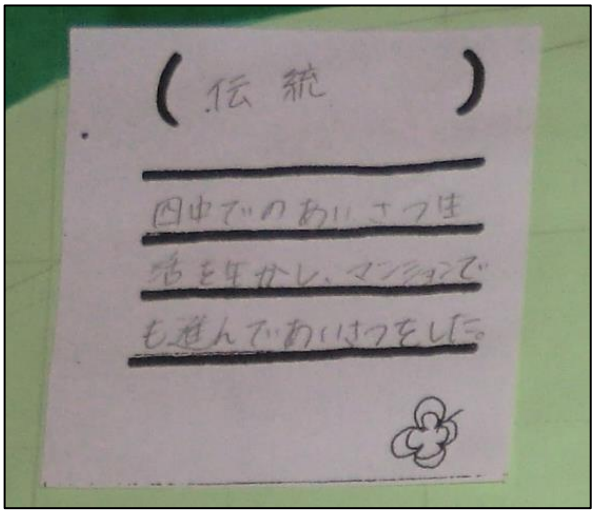
（３）四つ葉のクローバー運動について

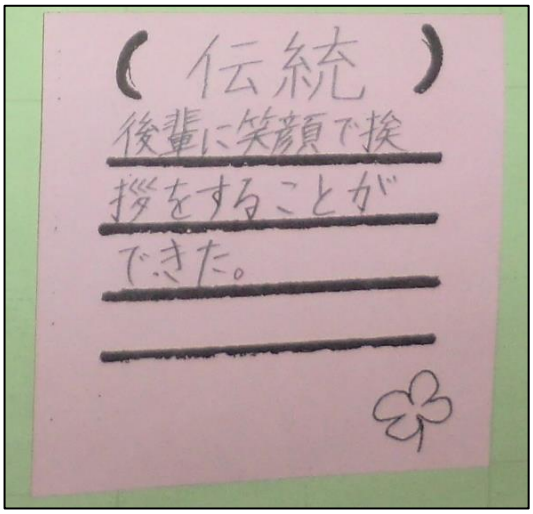
これまで本校では、いじめ撲滅のために、毎月四つ葉のクローバー運動を長年実施してきている。四つ葉のクローバー運動とは、いじめ撲滅に向けて一人ひとりにできることがあるということを認識してもらい、自分以外の生徒が何を意識し、どんな行動を起こしたのかを認知できる仕組みである。４つの柱として、「思いやり」「助け合い」「正義」「伝統・誇り」という観点において、全校生徒にこれまで経験した中で、実際のエピソードを含め、感じたこと、考えたことを書いてもらい、昇降口や教室等の場所に、掲示している。



成果として、人権意識が高まり、人権に関する知識や技能のほか、偏見や差別に気付く感覚など、日常生活の中で人権を尊重できるようになった。

【生徒による意見】





（４）つながる POST について

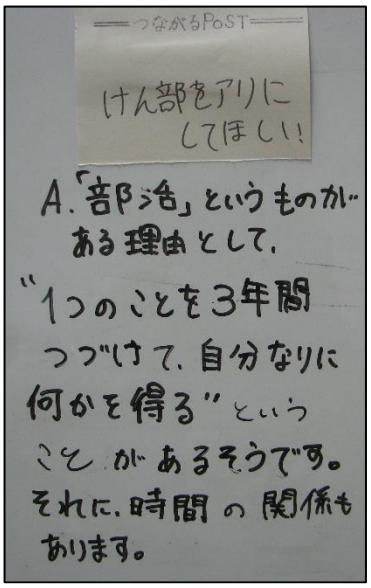
つながる POST とは、一般的にいう目安箱のようなものであるが、現生徒会長が堅苦しいような形ではなく、あくまでも学校と生徒を生徒会役員がつなげるものにしたいという願いから実施することになった。もっと全校生徒に、生徒会に対して興味をもって欲しい、学校は自分達で創ることができるということを実感して欲しい、という想いが込められていた。方法としては、各フロアの廊下につながる POST を設置し、寄せられた意見・要望について、昇降口のホワイトボードにすべて回答していった。中には、学校に携帯電話を持ってきても良いですか？などの意見もあったが、あえて真面目に回答するのではなく、携帯電話を使えない時間があるからこそ使える時間が楽しいと思いませんか？というようなユニークな回答を生徒会役員が知恵を絞りだしながら、丁寧に答えていった。その結果、

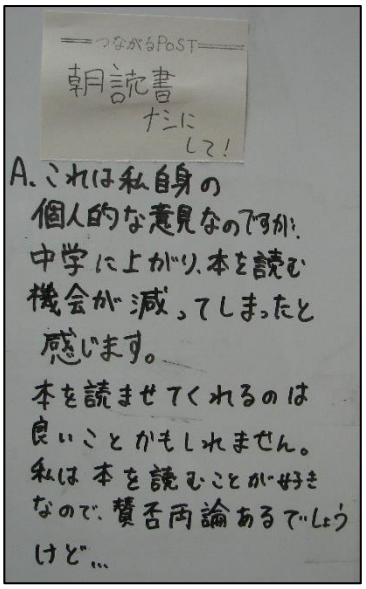
生徒が生徒会に学校に興味をもち始め、建設的な意見が寄せられるようになった。中でも、ボランティア活動をみんなでしてみたいという意見が寄せられ、地域のボランティア活動センターの方に来校していただき、夏休みにできるボランティア活動を紹介してもらい、地域のお祭りの手伝いや老人ホームでの高齢者との交流会を実施することなどができた。

【廊下に設置されている つながる POST】

【つながる POST を回答する生徒会長】

【“つながる POST” に寄せられた意見と回答】





３　成果と課題

これまでの取り組みを毎年行われている学校評価をもとに、成果と課題を考察する。学校評価の生徒会活動に該当する設問内容は、「あなた（お子様）は、委員会活動、四つ葉のクローバー運動など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」ということである。A:そう思う　B:だいたいそう思う　C:あまりそう思わない　D:そう思わない　E:わからない／無回答　の５段階評価である。下の表は、2018 年度と 2019 年度のものである。

【2018 年度】

生徒回答率（%）				
A	B	C	D	E
35.6	44.1	11.9	5.4	2.7

保護者回答率（%）				
A	B	C	D	E
35.3	33.9	17.3	4.4	9.2

【2019 年度】

生徒回答率（%）				
A	B	C	D	E
48.8	37.9	7.7	2.8	2.8

保護者回答率（%）				
A	B	C	D	E
39.9	38.8	10.8	2.1	8.4

2018 年度と 2019 年度の A:そう思う B:だいたいそう思う という点を平均すると、肯定的な回答は、74.45%（2018 年度）から 82.70%（2019 年度）に向上する結果になった。このことから、自主的・実践的な生徒会活動を通して、学校生活の課題解決を図った結果が、良い評価に表れていると考えられる。特に、「置き勉問題」という身近な内容を生徒会が解決したことで、生徒にとっても、保護者にとっても、生徒会活動を積極的に取り組んでいると実感できる要因になったと考える。

課題としては、生徒会活動を常に活性化させていくことの難しさである。本来、生徒会活動を活性化させる生徒会役員は、役員選挙で決選投票ではなく、信任投票が多くなり、志高い生徒会役員が生まれにくい現状となっている。現に、私が担当した生徒会役員６人は、すべて信任投票で役員になり、前年度経験した生徒は１人もいなかった。また、生徒会担当の教師は、すべてが中学生、高校生のときに自身が生徒会役員ではないことの方が多く、どのように生徒会活動を進めていけば良いのか、不明な点が多い。このようなことが重なり、生徒会活動を常に活性化させていくことは、難しくなっている。そこで、生徒が学校を創れるという風土を根付かせていくことが必要であると考える。

４　研究のまとめ

生徒が自主的に生徒会活動を創ろうと思うような研究を進めるに連れて、すぐに実現する問題ではないということが、改めて実感するようになった。これまでの学校が歩んできた歴史や生徒の変容を踏まえて、何年間も生徒会活動を活性化させていかなければ、実現できないと考える。その上で、今回新たに行った、「置き勉問題」「あいさつコンクール」「つながる POST」などは、生徒が学校を創るという考えをもつきっかけになったことは間違いないと思う。このような取り組みを生徒会担当の教師が替わったとしても、理念を継続し、より良く改善していくことが大切だと考える。また、それぞれの学校でも、生徒自ら問題を発見し、解決する問題解決力や、集団の関わりの中から人間関係を築く力を育てる多様な取り組みが広がっていければと願っている。

第三分科会　生徒会活動Ｂ

「形骸化しがちな生徒会活動の活性化」

東京都狛江市立狛江第一中学校　主任教諭　河　埜　亮　一
教諭　松　尾　紗綾香
教諭　北　島　直　翔

１．主題設定の理由

本校は「形骸化しがちな生徒会活動の活性化に向けての取り組み」をテーマに研究を始めた。本校の生徒会活動は形骸化しがちであった。特に「〇〇運動」というのは、定期的に行う活動なので、取り組みも分かっており、行い易い活動だけに、生徒にとって意義やねらいの理解が深まっていかない活動になりかねない。要は、マンネリ化しがちな活動と考える。それを変化させていくには、本校の現状や生徒の実態に合わせ、毎年新しい取り組みを行うことで、生徒自身が主体的に行動していく。しかし、新しい取り組みとは何か。生徒も教員も一緒に何度も話し合った。その経過と結果を紹介していきたい。

２．実践の概要

（１）生徒会の１年間の活動

９月【生徒会役員選挙】

・会長１人、副会長２人、庶務２人、計５人を選挙活動（朝の活動、昼の放送、ポスターなど）を通して、選挙を行う。今年は、実際に選挙で使われている投票箱と記載台を市から借り、行った。

１０月【後期スタート】

・後期は新しい専門委員会を発足し、今後の活動方針案や活動内容を決めた。

１１月【６年生説明会】

・来年度新しく入学する小学６年生（新入生）に対して、劇による行事の紹介や、部活動の体験を行った。

1月【生徒会長サミット】

・昨年は、練馬区立関中学校で行われた生徒会長サミットで、分科会で司会を行った。東京都の７０校を超える中学校の生徒会役員が集まり、各校生徒会で実施している活動について意見交換をした。

２月【ホワイトリボン運動】

・「いじめをしない、させない、認めない」という意識を持ってもらうためのいじめ防止運動。生徒会役員が自分たちで考え、実行した。受け渡し期間を含めて３週間行った。多くの参加があり、「いじめについて深く考えるきっかけになった」「もっと続けてほしい」などの回答が寄せられた。

４月【新入生歓迎会及び部活動紹介】

・一中の生活、行事を劇で紹介し、委員会の紹介、２・３年生で歌を歌う。部活動紹介も行い、各部に普段の部活の様子を再現してもらった。

５月【生徒総会】

・各委員会からの活動方針案の発表、承認、審議の場を設けることができた。この生徒総会を経て、各委員会の活動が本格的にスタートする。

・学級目標を発表。各クラスの想いを学校全体で共有することができた。

６月【体育祭】

・今年度は生徒会種目「大縄」で、生徒会役員を中心に司会・進行を行った。事前に大縄のまわし手からの意気込みを聞き発表したり、スタートと終了の合図を和太鼓で行ったりするなど、工夫をして取り組んだ。今後も生徒会役員を中心に行う予定である。

７月【ふれあいフェスティバル　参画】

・ＰＴＡ主催のふれあいフェスティバルに参画した。生徒会役員はビンゴ大会を主催したが、景品の準備等がとても大変だった。

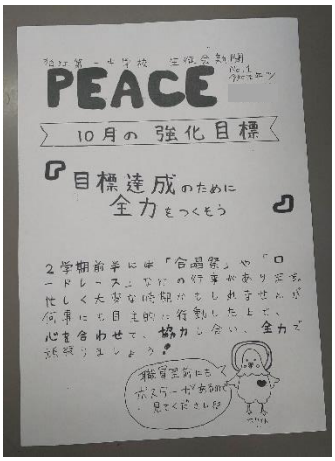
その他

【ホワイトリボン運動】

・１２月末に大野靖之さんのミニライブと合わせて、ホワイトリボン運動を実施する予定である。

【生徒会新聞 PEACE】

・不定期で、生徒会新聞 PEACE を発行している。

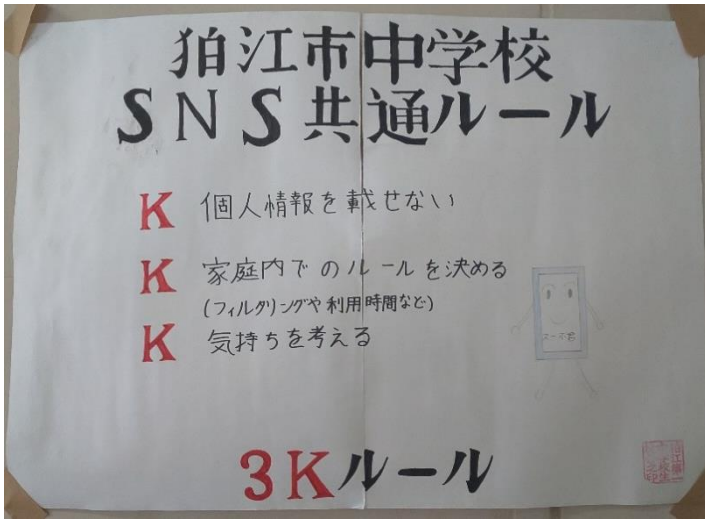


（２）生徒会交流会

毎年８月に行われる「生徒会交流会」。狛江市の中学校は４校ととても少ない校数だが、少ないからこそ、生徒会が一丸となって狛江を盛り上げていこうという気持ちで行っている。

毎年、司会を行う担当校が変わり、その担当校がテーマを考える。今年は「生徒会はどのように行事へ関わってくか」である。自己紹介から始まり、各校が悩んでいることを発表し、それについて一緒に解決策を考えていく。生徒たちにとってはとても有意義な時間であり、人との関わり方を学べる良い機会である。

昨年のテーマは「各中学校のＳＮＳルールについて」だった。本校が司会となって行ったが、とてもいい話し合いとなった。結果的にまとまったのは、各中学校に生徒会発信でルールを考えようということだった。そこでできたのが「３Ｋルール」である。



本校は今でも広めようと、毎年生徒会活動の具体的な活動方針内容に入れている。

（３）ホワイトリボン運動

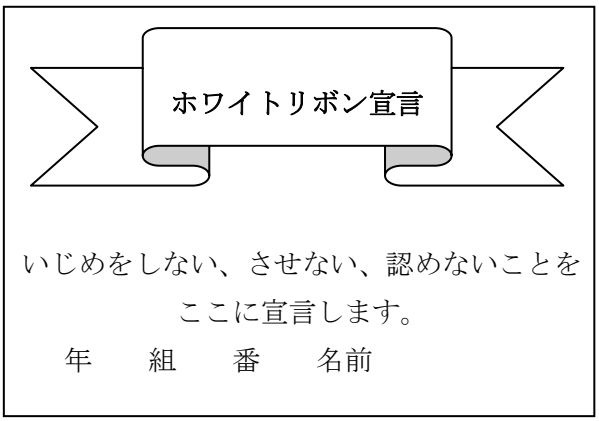
本校では２０１１年より、いじめ防止に向けた活動として、生徒会役員が中心となって「ホワイトリボン運動」を行っている。本活動は毎年２月に行っており、朝、昼休み、放課後に昇降口で生徒会役員から全校生徒へいじめ防止を呼び掛け、学校全体のいじめ防止への意識を高めようという活動である。まず「ホワイトリボン規約（以下参照)」を読んでもらい、“いじめをしない、させない、認めない”という考えに共感した生徒に宣言書を書いてもらう。運動への参加の証として、ホワイトリボンを渡し、女子は左胸、男子はバッグへ付けてもらう。

ホワイトリボン規約

・原則として標準服の左胸に付ける。
・ホワイトリボン運動に参加する、しないは各自の意志であり、参加した、しないについて、からかいや悪口は言わない。
・ホワイトリボン運動を通し、自分や人の言動を見て『もしかして、いじめにつながらないかな？』と考えるきっかけにする。
・ホワイトリボン、ホワイトリボン宣言を大切に扱う。
・安全ピンの取り扱いには注意する。

※このホワイトリボン宣言は生徒手帳に挟む。

本活動の目的は、「①いじめをしない、させない、認めないという気持ちをみんなで持ち、いじめを未然に防ぐ。」「②いじめ防止に賛同した生徒にホワイトリボンを付けることにより、校内でいじめになりうる言動に注意を向け、意識を高める。」「③いじめの無い世の中を築いていく生き方を考えることを通して、生徒の自尊感情を高める。」の３点である。



活動開始から３年目までは参加率を年々伸ばしたが、全校生徒からのアンケートから「ただリボンを配っているだけで、活動の趣旨が十分に理解されていない」との声が上がった。

５年目となる２０１５年、いじめとなりうる言動（無視、悪口、仲間外れ、暴力、物隠しなど）を映像にまとめ、全校朝礼で２回に分けて上映した。

６年目。いつまでもいじめに対する毅然とした考え方を持ち続けられる、覚えていられる方法として歌を作ることを決意する。ミュージシャンの大野靖之さんに作曲をお願いし、生徒会ソング『ともに』が完成する。

① 生徒会ソング『ともに』

前述の「ホワイトリボン運動」が６年目を迎え、全校生徒のいじめ防止への意識を高めるためのさらなる活動として、生徒会ソングの作成を決意する。作詞のため、全校生徒からいじめから思い浮かべるキーワードを募集すると、４５０以上のキーワードが集まる。下校途中に「君は１人じゃないよ」と寄り添うような、前向きな曲にしたいという想いで行われた作詞作業は、開始から約８か月間に及んだ。

作詞後、本校の道徳地区公開講座に、以前より講師としてお越し頂いていたミュージシャンの大野靖之さんに作曲を依頼した。大野さんと生徒会役員との幾度ものミーティングを経て、２０１５年８月に生徒会ソング『ともに』が完成する。

『ともに』　　作詞／平成２６・２７年度　生徒会　作曲／大野靖之

僕は最後に門を出た　　星や月が雲に隠れる　　そんな帰り道を僕は歩く
前を見ると見覚えのある目立つ靴　　「一人きり」なんて言葉が
似合わないあいつの寂しそうな背中に

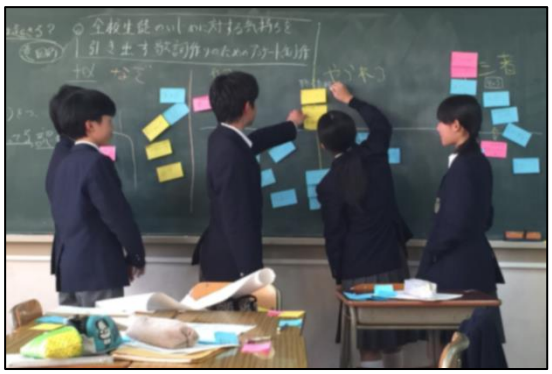
どうしたんだよ　　僕だって　負けてしまいそうなことがあるよ
でも悩まなくていいんだよ　　僕らの周りには沢山の人がいるんだ　　一人じゃない

気付けばいつのまにか　　星や月がほら見えてきた　　そんな帰り道を僕ら歩く
君と僕の心の距離が縮まった　　気付いてあげられなくてごめんね
話してくれてありがとう

どうしたんだよ　　僕だって　　涙があふれることがあるよ
だから頼っていいんだよ　　僕らの周りには沢山の人がいるんだ　　一人じゃない

どうしたんだよ　　誰だって　　笑顔になれる時があるよ
そんな時は思い出して　みんながいるから笑えたんだ
君の笑顔をずっと待ってる

君は一人じゃない　　誰かが君を必ず想ってくれているよ　　ららら…



（４）エコキャップ活動

エコキャップ活動は、平成２８年度から行っている活動である。この活動は以下の目的で行っている。

① ボランティア活動を通して、思いやりの心や助け合う心を育てる。

② エコキャップが世の中の人のためになることを知る。

③ エコキャップ回収レースを通じて、学級の親睦を図る。

期限を設けて各学年学級対抗で回収し、順位は回収したキャップの重さで決めていく。優勝したクラスを表彰するとともに、昼休みに一日体育館開放を行う。集めたキャップは、生徒会が本校の近くにある、回収している業者に持っていく。

３．成果と課題

形骸化しがちな生徒会活動であるが、その時々の学校の状況や生徒の実態、生徒会役員の想いなどを踏まえて活動を工夫し、新たな取り組みを行ってきた。

「ホワイトリボン運動」は、平成２７年から「当該児童・生徒が行った活動が契機となり、その効果が波及し、他の児童・生徒等の具体的な行動や取組に良い影響を与える行い」として東京都から表彰をいただいた。また、地域行事の際には保護者や地域の方々へ呼び掛けを行い、近隣の小学校へも本運動の紹介を行うなど、活動の場を広げることができた。

「生徒会ソング『ともに』」については、ミュージシャンの大野靖之さんの協力のもと完成することができ、現在では月～金曜日の下校放送として採用している。また、完成後には、近隣小学校への紹介、韓国の先生方への紹介、代々木オリンピックセンターで全国の先生方へ向けて発表を行った。

４．研究のまとめ

これらの活動を通して、生徒会役員の気持ちも大きく変わり、生徒自身も狛江一中生としての「誇り」をもち、大きく成長したと考える。

ホワイトリボン運動は地域や海外までにも活動を知らせ、広げることができた。これから中学

校に進学してくる小学生にも思いを伝えることができた。

３Ｋルールは狛江市内の中学校で決めることができたのも、今の中学校の現状や今後のことを真剣に話し合うことができる場があるからこそだと考える。そのような機会を今後も設けることと、市内だけではなく、多方面に広めていくことも視野に入れて考えていきたい。

第４分科会

あたたかな心を持ちながら，地域に貢献できる生徒を育成する特別活動

～春日丘フェスティバルを通して～

京都市立春日丘中学校　研究主任 藤原　有佐

１　主題設定の理由

令和元年度，本校の学校教育目標は「確かな自立・志ある貢献～自分の考えを持ち，協働して課題解決ができる力を育てる～」である。開校当初から一貫して「地域とともにある学校」を基本に置き，地域住民に支えられてきた。現在の本校の教育課題として①学習意欲，学力の向上のための授業改善②不登校生徒の解消③規範意識や道徳性のさらなる伸長④家庭教育力の脆弱性など４つがあげられる。

これら課題のうち①については，学級経営の中で学習と生活集団の機能を統一し，個々の課題を改善，解消することで，学びに向かう集団づくりを通して学業指導の充実を図っている。それを全校体制として，学習規律の向上を目指し，改善に向かっていく方法や取組を研究したいと考える。また課題②，③については，特別活動の目標である人間関係形成の視点に立って，集団活動を通して「個」を鍛え，豊かな人間性を育てることができると考える。そのためには本校が平成 11 年度より 21 年間，文化的な学校行事として取り組んでいる「春日丘フェスティバル」をさらに進化させることが必要であると考えた。

この行事は 10 月初旬の 2 日間，学校に地域の幼児や小学生，高齢者等の住民を迎え，クラスごとにイベント（教室で趣向をこらして寸劇やゲーム等）を行う。また，選出された「キャスト」と呼ばれるスタッフが，校内を案内するおもてなしの要素も含まれる。地元住民に中学生の姿を披露することで，今後の社会参画の入口としたい。また，行事だけではなく，行事の事前，事後に行われる学級活動（話合い活動）によって，よりよい人間関係の形成や集団づくりを通して，生徒一人ひとりの自己実現につなげたい。課題④については体育大会，合唱コンクール，春日丘フェスティバル，儀式的行事などをすべて保護者，地域に開放し，学校の様子や生徒が努力をしている様子を伝え，学校教育目標や生徒会スローガン「人のために」を発信できると考えた。特別活動は，学校教育の基盤的役割を果たすものであることを生かして研究を進め，本校の課題改善，解消にあたりたい。

２　研究のねらい

（１）生徒の資質・能力（人間関係形成・社会参画・自己実現）の育成
（２）特別活動を軸とするキャリア教育

３　研究の内容

（１）身に付けさせたい資質・能力については教育活動全体において育むものとしつつ，

その核となるのは特別活動とし，学級活動における話合い活動と学校行事である「春日丘フェスティバル」での実践と考えた。この共通理解のもと，特別活動研究推進委員会，学力向上プロジェクトチーム，フェスティバル実行委員会を中心に，特別活動，　各教科，各学年団が横断的に連携して，資質・能力育成の推進を図る。

①特別活動を核とした３つの資質・能力の育成

②学校行事「春日丘フェスティバル」で３つの資質・能力の実践及び定着の検証

③特別活動，各教科，各学年団等において身に付けさせたい資質・能力育成のための指導計画の明確化と効果的な学びの方法の研究

ア　特別活動（学級活動，学校行事）　イ　各教科　　ウ　学年団

④特別活動と各教科の諸活動における身に付けさせたい資質・能力育成の横断的な学習の計画及び連携による PDCA サイクルの確立

（２）春日丘フェスティバル

①春日丘フェスティバルとは

今年で 21 年目を迎える。春日丘フェスティバルを始めた当時の学校は，落ち着かない様子があった。生徒のなかにも自分の好きなことには意欲的に取り組むが，苦手なことや壁に当たると，そこから逃げ出す生徒が多く，何をするにも無気力な面が感じられた。行事も教師が決めた枠組みの中で取り組み，自分たちで新しいことに挑戦する前向きな気持ちも希薄であり，人間関係も上手に築けない生徒も多かった。それまで文化祭というなかで，「劇」や「展示」をやってきたが，それで誰が喜ぶのか，どうすれば生徒たちに「達成感」や「クラスの絆」を感じさせられることができるのか。当時の教職員たちは考え直し，出来上がったのが春日丘フェスティバルである。また，その中心に合言葉として据えられたのが，現在の生徒会スローガンでもある「人のために」である。初めは嫌々だった生徒も，徐々にクラスの取組について考え始め，クラスのみんなと協力する様子が増えた。このように，多くの人の思いが受け継がれ，春日丘フェスティバルは，春日丘中学校の伝統ある行事として現在も続けられている。

②春日丘フェスティバルで生徒に付けさせたい力

春日丘フェスティバルを通して，生徒が「人のために力を発揮することで，そこから得られる喜び」を味わい，「学級との絆を深め，さらにより良い人間関係を築く力」を付けることを期待する。フェスティバルのイベントやキャストとしての活動により，お客様からたくさんの笑顔と「ありがとう」の言葉をもらえる。その経験から，誰かを幸せにしようとする態度を育てたい。また，フェスティバルで学級とのつながりを感じ，集団のために自分には何ができるのか考え，生徒一人ひとりが自分の力を集団のために役立てようとする態度を育てたい。

③これまでの成果と今後の課題

春日丘フェスティバルの成果としては，生徒が達成感や自己有用感を得られ，居場所を与えられることである。フェスティバル当日の生徒の疲労はあるが，それでもお

客様から「ありがとう」の言葉をもらうと，生徒も「やって良かった」という気持ちになる。そして，普段はあまり学級になじめない生徒も，フェスティバルをきっかけとして，生徒同士の輪に入ることができ，交友関係が広がる様子も見られる。また，小中連携の面でも大きな成果がある。中学校のお兄ちゃんお姉ちゃんに優しく接してもらった経験が,「いつか自分もあんな中学生になりたい」という憧れの気持ちを抱かせる。実際に，中学生の中には，自分が小学生だったころ，フェスティバルで関わった，当時の中学生の姿を覚えている生徒も多数いる。生徒が「人のために」何ができるのかを主体的に考えて作り上げる素晴らしい学校行事である。

課題としては，春日丘フェスティバルは，かかる費用と時間，教職員の心身の負担，出されるごみの量，文化的要素の少なさを考えると，現代の教育の流れには合っていないと考えることもできる。地域に深く根付いた学校行事をすぐに大きく変えることはできないが，教職員は課題を念頭に置き，時代にあった方法で微調整しながら取組を導く必要がある。

④これからの春日丘フェスティバルの目指すもの

今後は，フェスティバルという行事を残しつつ，内容を精査し，削減できるところは削減することが求められる。このフェスティバルに向け，どうしても教職員の心身の負担が大きく，多くの教職員は夜遅くまで本番に向けての準備をしなければならない。「働き方改革」が進められる昨今，現在のフェスティバルのままでは時代の流れに合っていないのが現状である。また，取組の中に文化的要素が少ないのも課題であり，学年劇や学習発表の場などを設けていきたいと考える。

春日丘フェスティバル

◆目的　①**「人のために」**を実践する場とし、自分たちの活動が地域に貢献していることを実感する。
②集団生活を通して「個」を鍛え、さらによりよい人間関係を育む。
③地域に春日丘中学校の生徒の姿を披露、地域の一員として社会参画の力を育成する。

◆日時　10 月初旬の３日間（木～土）
- １日目　開祭集会　校内リハーサル
- ２日目　地域の保育園・幼稚園の子どもたち、介護施設などからお年寄りの方々を招待
- ３日目　一般公開　閉祭集会

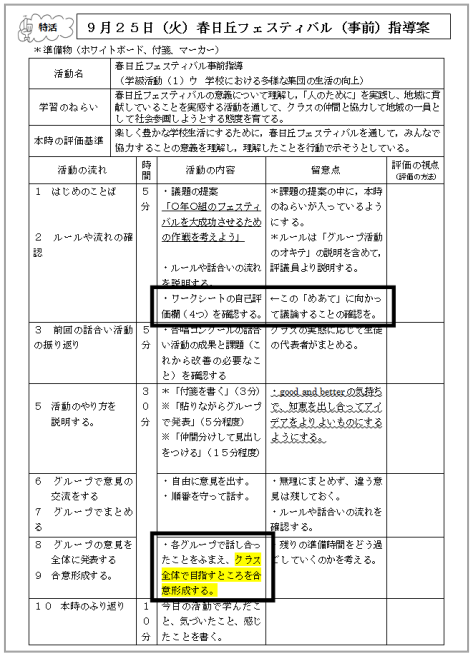
◆内容　イベント…クラスごとに「お客さま参加型イベント」を運営する
（例）教室内に３つのゲームコーナーを用意，すべてに参加できたら最後にスタンプを押印
教室内を装飾し，劇を行う
クイズコーナーとゲームを組み合わせて実施
他には，有志による発表（ダンスや漫才など）や教科展示，ＰＴＡコーナーなど

◆キャスト　ゲスト（お客さま）の案内役
➡各クラスから数名が立候補，staff 専用ポロシャツを着用して活躍
- ①お客様に対する接待（道案内）
- ②昇降口での受付、スタンプカード配布
- ③校内清掃
- ④展示教室の受付（門番）
- ⑤駐輪場の整備

（３）事前・事後の話合い活動の実践

①事前の話合い活動

体育大会（事前・事後），合唱コンクール（事前・事後），合計４回の話合い活動を経て，核となる学校行事「春日丘フェスティバル」（以後，フェスティバルと呼ぶ）の事前の話合い活動を行った。春日丘中学校では初めてのフェスティバル参加となる１年生だが，校区の保育園・幼稚園，小学生に在籍中に，何らかの形で招かれて〝お客さま〟として参加しているため，生徒にとっては大変身近な行事となっている。そのため，学級ごとのイベントの内容を考え，作業を進めていくことは，それほど難しいものではないようであった。ただ「楽しかった」「感動した」で終わることなく，伝統あるこの大きな学校行事を通じて，どのような力を付けたいのか，また付けた力を次にどのような場面で活用するのかを生徒自身に考えさせ，自らが実践したいと思えるような話合い活動となるように工夫した。そして，個人から出た意見をどのように合意形成していくのかをしっかりと見届け，フェスティバル本番と事後の話合い活動につなげた。



特活　９月２５日（火）春日丘フェスティバル（事前）指導案

＊準備物（ホワイトボード、付箋、マーカー）

活動名	春日丘フェスティバル事前指導 （学級活動（１）ウ　学校における多様な集団の生活の向上）
学習のねらい	春日丘フェスティバルの意義について理解し，「人のために」を実践し，地域に貢献していることを実感する活動を通して，クラスの仲間と協力して地域の一員として社会参画しようとする態度を育てる。
本時の評価基準	楽しく豊かな学校生活にするために，春日丘フェスティバルを通して，みんなで協力することの意義を理解し，理解したことを行動で示そうとしている。

活動の流れ	時間	活動の内容	留意点	評価の視点（評価の方法）
１　はじめのことば ２　ルールや流れの確認	５分	・議題の提案 「○年○組のフェスティバルを大成功させるための作戦を考えよう」 ・ルールや話合いの流れを説明する。	＊課題の提案の中に，本時のねらいが入っているようにする。 ＊ルールは「グループ活動のオキテ」の説明を含めて，評議員より説明する。	
		・ワークシートの自己評価欄（４つ）を確認する。	←この「めあて」に向かって議論することの確認を。	
３　前回の話合い活動の振り返り	５分	・音唱コンクールの話合い活動の成果と課題（これから改善の必要なこと）を確認する	クラスの実態に応じて生徒の代表者がまとめる。	
５　活動のやり方を説明する。	３０分	＊「付箋を書く」（３分） ＊「話りながらグループで発表」（５分程度） ＊「仲間分けして見出しをつける」（１５分程度）	＋good and better の気持ちで、知恵を出し合ってアイデアをより よいものにするようにする。	
６　グループで意見の交流をする ７　グループでまとめる		・自由に意見を出す。 ・順番を守って話す。	・無理にまとめず、違う意見は残しておく。 ・ルールや話合いの流れを確認する。	
８　グループの意見を全体に発表する ９　合意形成する。		・各グループで話し合ったことをふまえ、クラス全体で目指すところを合意形成する。	残りの準備時間をどう過ごしていくのかを考える。	
１０　本時のふり返り	１０分	今日の活動で学んだこと、気づいたこと、感じたことを書く。		

テーマ　フェスティバルを大成功させるために作戦を考えよう

これまでの話合い活動との大きな違いは，本番となる行事に順位や賞がないということである。他の学級と競う中で仲間との信頼関係が生まれるというものではなく，生徒会のスローガンである「人のために」を念頭に置きながら，いかにお客さまを楽しませるか，満足して帰ってもらうかを考えなければならない。そのため，何をもって「フェスティバルの成功」と考えるのか。自己有用感を得たいと願う生徒が多いために，さまざまな意見が出て，合意形成が難しく,担任のサポートが必要な場面も見られた。

②事後の話合い活動

テーマ　春日丘フェスティバルでの取組を，これからの生活に生かすには？

これまでの話合い活動のワークシートからは，自分の意見を持つことができても，相手に伝えることが得意ではないという傾向が見られ，自己肯定感の低い生徒がいることがわかった。しかし，フェスティバルを通して見えたのは，行事を通して自己有用感の高まりを感じている生徒が多いことであった。

このように，フェスティバル本番を終えての事後の話合い活動は，これまでになく満足感と自信にあふれ，活発なものとなり，合意形成することにも力が付いてきたことが分かった。あわせて，学校行事を通して身に付けた力と学習に向かう力とのつながりを感じる生徒が多いことも分かった。

生徒のワークシートから，フェスティバルを「ただ，楽しかった学校行事」で終わらせていないことがうかがえる。また，この話合い活動時のワークシートへの記述がこれまでで最も多く，生徒も教師も話合い活動を中心とした特別活動について，認識が深まっていることが感じられた。

【生徒ワークシートより】

- とにかく相手の立場になって考えることが大切だと思った。分かりやすい説明の工夫をしたり，明るく優しく接することが楽しく過ごしてもらえるポイントだと分かった，準備段階から絶対に気を抜かず，できる工夫はすべて行う。その姿勢をクラスの一人ひとりが持てたら一番いい。そんなクラスにできるよう，みんなの意識を高めていけたらいい。人を思いやる気持ちを大切にしたい。
- フェスティバルを通じて，相手意識を持つためには，自己中心でなく波長や態度を相手に合わせることが大切だと学んだ。子どもと年上の人に対して言葉は変化するし，歩くスピードも違う。今すぐにすべてを変えることはできないので，少しずつでもいいから自分を改革していけたら，と思う。
- 話合いから当日まで，お客さんのことを考えて取り組むことができた。今までの行事では，自分やクラスのことを考えてばかりいて，そんなことがなかったので，話し合いが役に立った。

③数字で見る生徒の変容

各学級では，活発な話合い活動が行われ，ワークシートにも生徒の気付きが多く見られたが，数字で見ると，体育大会からのアンケート共通項目①「自分の意見を自分の言葉で発表できた」と②「他の人の意見を聞いて生かすことができた」では，肯定的なポイント数は上がっていなかった。話合い活動の慣れが形骸化につながったのか，話合い活動が活発に行われたために自己評価を記入する時間が無くなったのかもしれない，とさまざまな憶測をした。

しかし，今回追加した項目③フェスティバルでの自分の役割を理解できる④ゲスト（お客様）の立場でフェスティバルについて考えられる⑤事前の話合い活動でまとめた意見を行動で示すことが出来る⑥フェスティバルでの取組を，これからの学習に役立てることが出来る，の４項目においては，多くの項目で事前より肯定的な数字が上昇していた。２年生では③「フェスティバルでの自分の役割が理解できる」の項目で100％というポイントが出た。これまで，話合い活動の様子がなかなか数字に表れてこなかった３年生のポイントにも大きな変化があった。

④その他

昨年度のフェスティバル後に行ったアンケートと同じ内容のものを生徒に配布，経年変化を見た。対象の２学年で，ほぼすべての項目のポイントが上昇，生徒がフェスティバルから学ぶことの多さを実感した。これまでの話合い活動では，他の学年と同じような高いポイントが出なかった３年生だったが，項目⑤「春日丘フェスティバルに来ていただくお客さまに喜んでもらえたと思う」では 100％となり，「誰かを喜ばせたい」「誰かの役に立ちたい」という，自己有用感を求める生徒が多いことが証明された。話合い活動という実践を通して，ポイントが上昇したのではないかと考える。

【フェスティバル後のアンケートの経年変化】

4　あてはまる　　3　どちらかというとあてはまる　　2　どちらかというとあてはまらない　　1　あてはまらない

				１年	２年	３年	全校
1	春日丘フェスティバルのねらいや目的を理解し，それを達成できた	H29	４・３	96.4	95.1	96.3	95.9
			２・１	3.6	4.9	3.7	4.1
		H30	４・３	96	96.9	96.5	96.5
			２・１	4	3.1	3.5	3.5
2	今年のフェスティバルを楽しむことができた	H29	４・３	94.9	91.3	94.1	93.4
			２・１	5.1	8.7	5.9	6.6
		H30	４・３	95.2	99.2	90.9	95.1
			２・１	4	3.1	9.1	3.6
3	クラスイベントでは，クラスの仲間と団結し，協力することができた	H29	４・３	96.4	96.1	95.6	96.0
			２・１	3.6	3.9	4.4	4.0
		H30	４・３	86.8	96.9	87.6	90.4
			２・１	13.2	3.1	12.4	9.6
4	春日丘フェスティバルの取組を通して，自分自身が成長できたと思う	H29	４・３	90.5	89.3	91.9	90.6
			２・１	9.5	10.7	8.1	9.4
		H30	４・３	93.6	92.2	90.9	92.2
			２・１	4	3.1	9.1	3.6
5	春日丘フェスティバルに来ていただくお客様に喜んでもらえたと思う	H29	４・３	97.8	96.1	94.9	96.3
			２・１	2.2	3.9	5.1	3.7
		H30	４・３	97.6	98.4	100	98.7
			２・１	2.4	1.6	0	1.3
6	春日丘フェスティバルにお客様と交流することが楽しく感じた	H29	４・３	89.8	90.3	95.6	91.9
			２・１	10.2	9.7	4.4	8.1
		H30	４・３	92.8	95.3	93.8	94.0
			２・１	7.2	4.7	6.2	6.0
7	春日丘フェスティバルを通して，地域の一員であるという自覚が持てた	H29	４・３	91.2	88.3	89.7	89.7
			２・１	8.8	11.7	10.3	10.3
		H30	４・３	90.4	92.2	94.5	92.4
			２・１	9.6	7.8	5.5	7.6
8	お客様のことを考え，おもてなしの心を持って取り組むことができた	H29	４・３	97.1	93.2	94.1	94.8
			２・１	2.9	6.8	5.9	5.2
		H30	４・３	93.6	99.2	98.2	97.0
			２・１	6.4	0.8	1.8	3.0
9	クラスや学校のことを考えて取り組むことができた	H29	４・３	96.4	93.2	95.6	95.1
			２・１	3.6	6.8	4.4	4.9
		H30	４・３	94.4	99.2	97.4	97.0
			２・１	5.6	0.8	2.6	3.0
10	お客様の喜ぶ姿を見て，自分自身も嬉しい気持ちになった	H29	４・３	91.2	89.3	96.3	92.3
			２・１	8.8	10.7	3.7	7.7
		H30	４・３	96	94.5	98.1	96.2
			２・１	4	5.5	1.9	3.8
11	人のために役立つ人間になりたい	H29	４・３	94.9	98.1	97.1	96.7
			２・１	5.1	1.9	2.9	3.3
		H30	４・３	96.8	99.2	97.2	97.7
			２・１	3.2	0.8	2.8	2.3

【フェスティバル　生徒振り返りアンケートより】

『フェスティバルでの経験を，今後どのように生かしていきますか』

・人のために何かを考えるというこのが，とても楽しく，誇らしいものだと感じたので，自分の将来や日常生活の中に，「人のため」という気持ちを持ちながら行動ができるようにする。
・人のために役に立ちたい。
・楽しくやるのも大切だけど，しっかりと周りを見て，どのような動きをすればいいのかを考えようと思う。
・分からないことがあれば，人に聞いて頼りながら，協力して解決していけばいいということを学び，今後に生かしたい。準備から片付けまで，みんなで責任を持ってやり遂げることを，クラスだけでなく部活動でも生かす。
・クラスイベントの劇で，ナレーターを役をして人前でうまくセリフを言えたので，人前で自分の言葉で話せるようになってうれしかった。自分の意見をはっきり伝えられるようになりたいと思う。

４　成果と課題

（１）特別活動を核とした資質・能力の育成

【成果】

○身に付けたい資質・能力を３つの視点（人間関係形成，社会参画，自己実現）からとらえ，特別活動（３つの主な学校行事）において，学級での話合い活動や学校行事を通して，その定着を意識させる取組を行った。社会に出て必要となる力（特別活動において育てるべき力）を学校行事と関連付け,「春日丘フェスティバル」という地域社会や異年齢集団との関わりにより,「確かな自立・志ある貢献」を学校目標に掲げる本校の目指す生徒像の育成につなぐことができた。

○特別活動における学習指導案の作成及び振り返りワークシートの活用により，教職員・生徒共に学校行事が特別活動の学びの実践の場と認識でき，集団や社会で生かすことのできる資質・能力の育成及び実践を意識して諸活動に臨むことができた。

【課題】

●研究期間中，１年目は教職員向けの研修会を実施したり，生徒に向けては，学校行事「春日丘フェスティバル」前後の生徒アンケートや参加者アンケートを実施した。しかし，教職員は研究指定を受けている認識があまり高まらないまま，２年目に突入した。そのため，経年変化を見るという確固たるエビデンスを収集することに困難性を抱いた感もある。目指す生徒像があり，研究を行うのであれば，研究指定の年度が始まるまでに，人員配置なども含めて，十分な準備期間を設けるのが望ましい。

（２）学校行事「春日丘フェスティバル」で３つ視点を柱とした資質・能力の実践及び定着の検証

【成果】

○身に付けさせたい資質・能力の焦点化・構造化及びアンケート等の検証改善方法の確立により，その定着や生徒の変容をより確実に把握することができた。学級での話合い活動の学びが「春日丘フェスティバル」における実践を通すことで，より深い学びへとつながり，生徒のキャリア形成に強く関連していることが分かった。

○生徒一人ひとりの変容を共有できる見取りの方法と評価方法の研究により，発達段階での成長を振り返ることができた。

【課題】

●学級での話合い活動と「春日丘フェスティバル」を通して，生徒が合意形成の後に学校行事を成功に導くこと,「人のために」主体性を持って自ら行動する意欲が高まることは証明できたが，特別活動で付けた力と教科の学習との明らかな往還性について，何をもってエビデンスとするのか，それを証明していくことは難しいとわかった。しかし，話合い活動を通して仲間との信頼関係ができ，支持的風土が形成され，その環境下で，間違いを怖がらず主体的に学びに向かうことができれば，おのずと学習意欲が高まり，学力の向上にもつながると考える。また，学びに向かう力は，これから先の自分の将来を創造し，未来を切り拓く力にもなる。それを証明するには研究を継続する必要がある。

（３）特別活動，各教科，各学年団等において身に付けさせたい資質・能力育成のための指導計画の明確化と効果的な学びの方法の研究

【成果】

○継続的な取組により，学級活動では，生徒の主体的な学びが促され，深い学びにつながる話合い活動の充実が図られるようになった。

○特別活動の中の話合い活動を，各教科の学びや道徳の授業，委員会活動をはじめとする学校生活のさまざまな場面に取り入れることで，特別活動と各教科等の往還的な関係や実生活，実社会とのつながりを意識できるようになってきた。

【課題】

●各教科間においても関連性や系統性を持った学習活動を実施し，効果的な学びとその深化を図る必要がある。研究内容を，作成中のカリキュラム・マネジメントシートに反映させ，今年度中の運用を目指す。

（４）特別活動と各教科の連携によるＰＤＣＡサイクルの確立

【成果】

○生徒・教職員，また地域が関わる学校行事を柱に据え，特別活動や各教科の学びと連携させ，チーム春日丘として，計画・実施・振り返りによる課題の洗い出しを行い，創意工夫を重ね改善につなげたことで，特別活動（話合い活動）のＰＤＣＡサイクルが構築できた。

○生徒においても，振り返りワークシートの蓄積によりポートフォリオが完成，教科と特別活動の関わりを意識でき，次回への改善・計画につながった。来年度以降に導入予定のキャリアパスポートへのスムーズな移行が可能となった。

５　研究のまとめ

特別活動で実践された話合い活動における学びは，各々の進路選択や暫定的な決定に向け，大きく生かされていくと考える。彼らの成長ぶりを糧とし，今後の生徒の主体的な学びを促し，キャリア教育へとつなげている。学級活動をはじめ，各教科の学習や生徒会活動において，生徒自身が発達段階における身に付けるべき資質・能力をより一層意識しながら，その定着と変容を実感できる評価の工夫と学びの成果の蓄積を図る。校内の研究体制の中心となっている研究推進委員会と学力向上プロジェクトチーム，春日丘フェスティバル実行委員会が活性化し，一定のサイクルが出来上がりつつあることで，教職員集団の特別活動と授業改善に対する意識の高まりを感じている。学校教育目標「確かな自立・志ある貢献～自分の考えを持ち，協働して課題解決ができる力を育てる～」を実現するために，特別活動を核に，各教科を含めた学習や取組を通じて，横断的な視点から教育活動の改善を進める。

これまで行ってきた話合い活動を，研究期間中のみの取組ではなく，今後も継続していくことで，春日丘中学校の特色ある活動へと深化させたい。研究の真の成果は，今年度，ようやく実感できるのではないかと考える。

資　料

★全日本中学校特別活動研究大会の歩み

回	開催年月日	開催地	「主　題」 （会　場）	会　長 実行委員長
第１回	昭和47. 6.8（木） 9（金）	東京都 （板橋区）	「望ましい人間関係をめざして、新しい特別活動をどのように進めたらよいか」 ～その計画・運営・指導の在り方を研究する。～ （板橋区立区民会館・産業文化会館、板橋区立上板橋第一中学校　他５会場）	須田　重雄 須田　重雄
第２回	昭和48.11.8（木） 9（金）	広島県 （福山市）	「ひとりひとりをたいせつにする特別活動はいかにあるべきか 」～特にクラブ活動をとりまく課題を明らかにし、その計画・運営・指導のあり方をさぐる～ （福山市民会館、福山市立城北中学校、他２会場）	須田　重雄 近藤　通珍
第３回	昭和49.6.6（木） 7（金）	東京都 （中野区）	「これからの特別活動の充実をどのように進めるか」 （中野区立公会堂、中野区立中央中学校）	菊池　四郎 菊池　四郎
第４回	昭和50.6.20（金） 21（土）	東京都 （目黒区）	「生きがいを育てる特別活動の指導をどのように進めるか」 （東京都立教育研究所）	菊池　四郎 菊池　四郎
第５回	昭和51.6.24（木） 25（金）	埼玉県 （浦和市）	「これからの学校教育の中学校における特別活動」 （浦和市民会館、桶川中学校、他２会場）	菊池　四郎 加藤　雅信
第６回	昭和52.6.24（金） 25（土）	岡山県 （岡山市）	「ゆとりある教育の中の特別活動」～教師と生徒のふれ合いを求めて～ （岡山市民文化ホール、中央公民館）	菊池　四郎 串田　吉雄
第７回	昭和53.6.2（金） 3（土）	茨城県 （下妻市）	「いきがいと充実感あふれる中学生を育てる特別活動」 （下妻市立下妻中学校）	菊池　四郎 広瀬　一徳
第８回	昭和54.8.3（金） 4（土）	香川県 （高松市）	「自ら考え正しく判断・行動できる生徒の育成をめざす特別活動」 （高松市民会館、他４会場）	岩亀　幸三郎 谷本　義男
第９回	昭和55.6.20（金） 21（土）	東京都 （中野区）	「新教育課程の趣旨を生かす特別活動」 （中野区立公会堂、東京都立教育研究所）	田代　拳 神戸　恭三郎
第10回	昭和56.8.7（金） 8（土）	兵庫県 （神戸市）	「ゆたかな人間性の育成を目ざす新しい特別活動」～ゆとりと充実の実践課題～ （神戸文化ホール、他８会場	田代　拳 河野　広雄
第11回	昭和57.8.6（金） 7（土）	千葉県 （千葉市）	「ゆたかな人間性の育成をめざす特別活動」～ゆとりと充実の創造と実践～ （千葉県教育会館、他５会場）	田代　拳 菅崎　栄
第12回	昭和58.9.29（木） 30（金）	福島県 （福島市）	「生徒の自主的・自治的活動を定着させる特別活動」 ～一人歩きのできる生徒の育成をめざして～ （福島市立福島第四中学校、大鳥中学校、吾妻中学校、福島市民センター）	田代　拳 橋谷田千代士
第13回	昭和59.8.9（木） 10（金）	静岡県 （静岡市）	「一人ひとりに充実感を生み出す特別活動」 （静岡市民文化会館、他５会場）	神戸　恭三郎 土屋　伊佐雄 加藤　清
第14回	昭和60.8.7（水） 8（木）	東京都 （渋谷区）	「生徒の自己教育力を高める特別活動」 （国立オリンピック記念青少年総合センター）	横尾　武成 両角　敏彦 原口　盛次
第15回	昭和61.11.13（木） 14（金）	東京都 （中野区）	「生徒の学校生活を活性化する特別活動」 （中野文化センター、豊島区立高田中学校、中野区勤労福祉会館）	横尾　武成 原口　盛次
第16回	昭和62.8.7（金） 8（土）	千葉県 （千葉市）	「生徒の自主性を高める特別活動」 （千葉県教育会館、千葉県自治会館、公立学校共済組合青雲閣）	原口　盛次 細谷　竹松
第17回	昭和63.8.9（火） 10（水）	徳島県 （鳴門市）	「生徒の創造を生かし、一人ひとりに充実感をもたせる特別活動」 （鳴門市文化会館、老人福祉センター、青少年育成センター、地場産業センター）	原口　盛次 廣岡　政吉
第18回	平成元.8.8（火） 9（水）	栃木県 （藤原町）	「一人一人を伸ばす特別活動」～より望ましい集団活動を通して～ （鬼怒川温泉あさやホテル）	槇　常三 武井　岩夫
第19回	平成2.10.18（木） 19（金）	新潟県 （両津市）	「主体的な集団活動をうながす特別活動のあり方」 （佐渡島開発総合センター、両津市立東中学校、南中学校）	槇　常三 渡辺　喜信
第20回	平成3.8.8（木） 9（金）	群馬県 （伊香保町）	「望ましい集団活動を通して、一人一人の生き方を育てる特別活動」 （伊香保温泉ホテル天坊）	鶴巻　武 松下　熙雄
第21回	平成4.10.30（木） 31（金）	埼玉県 （北本市）	「豊かな人間性を育む特別活動」～多様な体験活動の実践を通して～ （北本市文化センター、北本市立北本中学校）	鶴巻　武 布目　雅之
第22回	平成5.8.6（金） 7（土）	鹿児島県 （鹿児島市）	「望ましい集団活動を通して、主体的に生きる力を培う特別活動」 （鹿児島市民文化ホール、鹿児島サンロイヤルホテル）	山田　忠行 竹原　宏
第23回	平成6.8.18（木） 19（金）	和歌山県 （和歌山市）	「たくましい実践力を育てる特別活動」～人間としての生き方を求めて～ （和歌山県民文化会館、紀の国会館）	山田　忠行 久保　陽右
第24回	平成7.8.7（月） 8（火）	東京都 （中野区）	「たくましく生きる意欲を育てる特別活動」 （なかのＺＥＲＯ）	山田　忠行 小松　博則

回	開催年月日	開催地	「主　題」 （会　場）	会長 実行委員長
第25回	平成8.8.2（金） 3（土）	青森県 （弘前市）	「豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動」 （弘前市民会館、弘前文化センター）	小松　博則 鈴木　弘
第26回	平成9.8.7（木） 8（金）	神奈川県 （横浜市）	「豊かな人間性を培い、主体的に生きる力を育てる特別活動」 （横浜市立横浜商業高等学校、パシフィコ横浜）	平松　隆 名塚　義明
第27回	平成10.8.7（金） 8（土）	広島県 （広島市）	「豊かな人間性をつちかい、生きる力をはぐくむ特別活動」 （広島県民文化センター、鯉城会館、広島国際会議場）	平松　隆 澤村　晴視
第28回	平成11.8.19（木） 20（金）	栃木県 （藤原町）	「生きる力をはぐくむ　あらたな特別活動を求めて」 （鬼怒川温泉グリーンパレス）	佐藤　真人 須藤　稔
第29回	平成12.8.3（木） 4（金）	熊本県 （熊本市）	「２１世紀を生きる力を育てる特別活動」 （メルパルクＫＵＭＡＭＯＴＯ）	佐藤　真人 坂井　豊水
第30回	平成13.8.2（木） 3（金）	東京都 （中野区）	「２１世紀を拓く特別活動」　～共に考え、共に歩む～ （なかのＺＥＲＯ）	佐藤　真人 保積　芳美
第31回	平成14.8.7（水）	鹿児島県 （鹿児島市）	「豊かなかかわり合いを通して、共に生きる力を育てる特別活動」 （ホテルウエルビューかごしま）	保積　芳美 山下　雄平
第32回	平成15.7.30（木） 31（金）	愛媛県 （松山市）	「共生と創造を目指す特別活動の研究」 （松山市立子規記念博物館、にぎたつ会館、メルパルクＭＡＴＳＵＹＡＭＡ）	保積　芳美 芝　英徳
第33回	平成16.10.15（金） 16（土）	徳島県 （阿南市）	「望ましい集団活動を通して、生きる力を育てる特別活動」 （阿南中学校、阿南市文化会館）	保積　芳美 萩原　宏昭
第34回	平成17.8.3（木） 4（金）	東京都 （中野区）	「望ましい集団活動の活性化を通して、生きる力を育てる特別活動」 ～社会的な資質の育成を中心にして～ （中野区教育センター、中野区立中央中学校）	保積　芳美 加々美　肇
第35回	平成18.10.27（金） 28（土）	青森県 （弘前市）	「出会おう新しい自分、生きよう自分らしく」 ～豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動～ （弘前市立東中学校、弘前市文化センター）	加々美　肇 山科　實
第36回	平成19.7.31（火）	東京都 （中野区）	「豊かな人間関係づくりを通して、生きる力を育む特別活動」 ～学校と家庭・地域を結ぶ特別活動～　（なかのＺＥＲＯ）	加々美　肇 坂井　晃
第37回	平成20.8.6（水）	群馬県 （前橋市）	「未来を拓く人間力を培う特別活動」 ～望ましい集団活動・豊かな人間関係づくりを通して～　（前橋テルサ）	加々美　肇 尾身　正治
第38回	平成21.10.16（金） 17（土）	東京都 （江東区）	「望ましい人間関係を形成する新たな特別活動の展開」 （江東区立深川第八中学校、江東区教育センター）	坂井　晃 美谷島　正義
第39回	平成22.10. 29（金）	青森県 （五所川原市）	「触れ合いの中で発見しよう　輝く自分　響き合う仲間」 ～新しい時代を切り拓く特別活動～　（五所川原市立五所川原第一中学校）	坂井　晃 永澤　正己
第40回	平成24.1.28（土）	東京都 （文京区）	「助け合い　励まし合う　仲間づくり」 ～望ましい人間関係の形成と集団や社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～ （東京都教職員研修センター）	佐々木辰彦(代行) 松本　康夫
第41回	平成24.12.1（土）	東京都 （文京区）	「認め合い　高め合う　仲間づくり」 ～社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～　（東京都教職員研修センター）	佐々木　辰彦 勝亦　章行
第42回	平成25.8.8（木）	大分県 （別府市）	「よりよき人間関係を築き、望ましい集団活動を通して生きる力をはぐくむ特別活動」 ～話合い活動の充実による自治能力の育成～　（立命館アジア太平洋大学）	勝亦　章行 児玉　徳信
第43回	平成26.10.30（木） 31（金）	愛媛県 （松山市）	「絆を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の創造」 ～より良い生活や人間関係を築く集団活動の実践を通して～　（松山市立桑原中学校）	勝亦　章行 武田　峰紀
第44回	平成27.10.2（金） 3（土）	神奈川県 （横須賀市）	「自主的、実践的な態度と想像力を育む特別活動を目指して」 ～よりよい人間関係を育成する中で～ （ヨコスカベイサイドポケット産業交流プラザ・総合福祉会館）	松本　康夫 守谷　賢二
第45回	平成28.11.19（土）	東京都 （墨田区）	「認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり」 ～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～ （墨田区立本所中学校）	松本　康夫 長谷川　晋也
第46回	平成29.8.10（木）	佐賀県 （佐賀市）	「よりよい人間関係を築き、主体的に実践する力を育む特別活動の創造」 ～協働的な学びの基礎を形成する集団活動の実践活動を通して～	長谷川　晋也 中野　義文 澤　成樹
第47回	平成30.11.10（土）	東京都 （練馬区）	「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」 ～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～	上岡　祥邦 青木　由美子
第48回	令和元.11.16（土）	東京都 （狛江市）	「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」 ～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～	上岡　祥邦 青木　由美子

全日本中学校特別活動研究会　会則

第１章　　総　則

第１条　本会は、全日本中学校特別活動研究会と称し、事務局は会長校内におく。

第２条　本会は、全国の特別活動研究者をもって組織し、特別活動に関する重要問題を取り上げて協議し、わが国中学校特別活動教育推進と発展に寄与することを目的とする。

第３条　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

一　全日本中学校特別活動研究大会の開催

二　各都道府県における中学校特別活動研究協議会・研究会・講習会・座談会等の主催協力・連絡

三　各都道府県の中学校特別活動研究団体との交流・連絡

四　機関誌・機関新聞・紀要等の刊行

五　その他関係機関との連携及び必要な事業

第４条　本会の会員は次のものによって構成する。

一　全国の都道府県の特別活動研究会の会員

二　その他、本会の主旨に賛同する者

第２章　　役　員

第５条　本会は次の役員をおく。

一　会　　長　　１名　　二　副会長　　若干名　　三　事務局長　　１名

四　全国理事

第６条　会長は理事会で選出し、任期は９条によるものとする。

第７条　理事は、参加研究団体の中からの推薦により会員の者から選出する。

副会長及び事務局長は、理事の中からまたは理事の推薦により会長が委嘱する。

第８条　役員の職務は、次の通りとする。

一　会長は本会を代表し、会務を総括する。

二　副会長は、会長を補佐し会長事故ある時は、その職務を代行する。

三　事務局長は、事務局を組織し、常時の会務運営を担当する。

四　理事は、理事会を構成し本会の企画・運営のための原案作成及び会務の審議決定をする。

第９条　本会の役員の任期は一年として、再任をさまたげない。補欠によって就任した役員の任期は前任者の残留任期とする。

第 10 条　本会は、名誉会長・顧問・参与をおくことができる。名誉会長・顧問・参与は本会の重要な会議に出席して意見を述べることができる。

第3章　　執　行　機　関

第 11 条　本会の会務を統括し遂行するために事務局をおく。事務局には、事務局長のもとに、事務局員若干名をおく。

第 12 条　事務局には、次の部をおく。

一　庶務部　　二　会計部

各部には、部長・副部長ならびに部員若干名をおく。

第 13 条　各部の構成人員は、事務局員をもってこれに充て、会長が委嘱する。

第4章　　会　議

第 14 条　理事会は、毎年一回開催し、会の重要事項について報告・審議する。その他の会議は必要に応じて開くものとする。会議はすべて会長がこれを招集する。

第5章　　会　計

第 15 条　本会の会費は、次の収入をもってこれにあてる。

一　会費　　二　寄付金　　三　助成金　　四　その他の収入

会費は地区分担金費（都道府県年２　０，０００円）とする。会費は、理事会の議決で決める。

第 16 条　本会は、特に必要ある場合臨時会費を徴収することができる。

第 17 条　本会の予算及び決算は、予算書及び決算書を作成し、理事会で報告、審議及び承認を得るものとする。

第 18 条　本会の年度は、４月１目に始まり、翌年の３月３１日に終わる。

付　　則

1　本会の会則の変更は、理事会の議決によるものとする。

2　本会の運営については、細則をもうけることができる。

3　本会の会則は昭和 47 年 6 月 8 日から施行するものとする。

昭和 48 年 11 月　8 日改正

昭和 58 年　9 月 29 日改正

平成 14 年　7 月 30 日改正

平成 25 年　8 月　7 日改正

令和元年度　全日本中学校特別活動研究会　全国理事名簿

令和元年10月10日

会 長	上岡　祥邦	足立区立第十二中学校	120-0001	東京都足立区大谷田１－３７－１
副会長・事務局長	青木　由美子	小平市立小平第五中学校	187-0032	東京都小平市小川町１－７９８

都道府県	氏 名	学 校 名	〒番号	所 在 地
青森県	松山　正男	弘前市立石川中学校	036-8124	青森県弘前市石川字庄司川添１９－１
岩手県	千葉　康彦	盛岡市立大宮中学校	020-0866	岩手県盛岡市本宮字大宮５－１
山形県	植松　英敏	東根市立第三中学校	999-3722	山形県東根市大字泉郷乙1922番地
福島県	佐藤　信行	福島市立立子山中学校	960-1321	福島県福島市立子山字大稲場20
群馬県	野口　浩之	藤岡市立鬼石中学校	370-1401	群馬県藤岡市鬼石２３５－１
茨城県	片岡　寿夫	水戸市立笠原小学校	310-0852	茨城県水戸市笠原町３４７－１７
栃木県	金森　宏	小山市立小山城南中学校	323-0829	栃木県小山市東城南１－２２－９
東京都	上岡　祥邦	足立区立第十二中学校	120-0001	東京都足立区大谷田１－３７－１
東京都	青木　由美子	小平市立小平第五中学校	187-0032	東京都小平市小川町１－７９８
神奈川県	星野　嘉朗	横須賀市立衣笠中学校	238-0032	神奈川県横須賀市平作２－３１－１
静岡県	太田　和哉	富士市立吉永第一小学校	417-0847	静岡県富士市比奈1431番地
石川県	中野　務	加賀市立山代中学校	922-0322	石川県加賀市上野町工４５－２
福井県	塩谷　圭司	福井市立灯明寺中学校	910-0063	福井県福井市灯明寺３－３８０１
岐阜県	大澤　賢二	本巣市立本巣中学校	501-1203	岐阜県本巣市文殊120
滋賀県	脇坂　久徳	守山市立守山北中学校	524-0016	滋賀県守山市荒見町235
大阪府	廣瀬　浩	守口市立庭窪小学校	570-0002	大阪府守口市佐太仲町１－６－１０
兵庫県	中村　喜代久	神戸市立八多(はた)中学校	651-1343	兵庫県神戸市北区八多町附物876
奈良県	橋本　眞一	東吉野村立東吉野中学校	633-2423	奈良県吉野郡東吉野村大字小栗栖825
和歌山県	西川　彰彦	和歌山市立明和中学校	641-0012	和歌山県和歌山市紀三井寺８３２－１
岡山県	小野　大	岡山市立福南中学校	702-8054	岡山県岡山市南区築港ひかり町１０－３５
山口県	村田　正俊	萩市立越ヶ浜中学校	758-0011	山口県萩市大字椿東6089番地4
島根県	大庭　匡史	益田市立美都中学校	698-0203	島根県益田市美都町都茂1947
鳥取県	牧野　厚志	北栄町立北条中学校	689-2111	鳥取県東伯郡北栄町土下１００－１
香川県	久保田　員生	三豊市立詫間中学校	769-1101	香川県三豊市詫間町詫間５７９６－１
徳島県	池内　裕之	石井町立高浦中学校	779-3242	徳島県名西郡石井町浦庄国実100番地
愛媛県	妻鳥(めんとり)昇司	松前町立岡田小学校	791-3132	愛媛県伊予郡松前町西高柳156
福岡県	樋口　貴文	みやま市立瀬高中学校	835-0024	福岡県みやま市瀬高町下庄1885
佐賀県	角田　雅弘	神埼市立脊振中学校	842-0201	佐賀県神埼市脊振町広滝５９４－１
長崎県	森　浩司	長崎市立片淵中学校	850-0003	長崎県長崎市片淵３－２２－２２
熊本県	豊田　浩之	熊本市立河内中学校	861-5347	熊本県熊本市西区河内町船津2470番地1
大分県	山野内　志信 (指導教諭)	大分市立城東中学校	870-0925	大分県大分市牧上町１４－１９
鹿児島県	今村　正次	南九州市立知覧中学校	897-0306	鹿児島県南九州市知覧町西元4160
宮崎県	渡部　一博	宮崎市立高岡中学校	880-2221	宮崎県宮崎市高岡町内山2700番地

第48回 全日本中学校特別活動研究会大会 実行委員会名簿

	運営役職	氏　名	勤　務　校	職　名
全国会長		上岡　祥邦	足立区立第十二中学校	校　長
実行委員長		青木由美子	小平市立小平第五中学校	校　長
事務局長		荒巻　淳	江戸川区立葛西中学校	副校長
副実行委員長	総務部顧問	弓田　豊	中野区立中野中学校	校　長
副実行委員長	編集部顧問	松本　康夫	東村山市立東村山第七中学校	校　長
副実行委員長	研究部顧問	齋藤　実	武蔵村山市立小中一貫校村山学園	統括校長
総務部	部　長	植木　俊孝	小金井市立小金井第一中学校	副校長
	副部長	伊木　文枝	東村山市立東村山第三中学校萩山分校	主幹教諭
		栗原　美絵	武蔵村山市立小中一貫校大南学園　第四中学校	教　諭
		酒井　寛子	板橋区立志村第四中学校	教　諭
	顧　問	弓田　豊	中野区立中野中学校	校　長
会計部	部　長	藤本謙一郎	練馬区立石神井東中学校	主幹教諭
運営部	部　長	谷口　典夫	狛江市立狛江第一中学校	主任教諭
	副部長	田爪　一浩	中野区立第七中学校	副校長
		大橋　えり	葛飾区立常盤中学校	主任教諭
		有川　直志	江東区立有明西学園	主任教諭
		三枝　剛	江戸川区立南葛西中学校	主任教諭
		小野　貴史	江戸川区立松江第一中学校	教　諭
		西本　静	江戸川区立松江第六中学校	教　諭
研究部	部　長	瀬戸　完一	葛飾区立小松中学校	副校長
	副部長	吉川　滋之	東村山市立東村山第五中学校	指導教諭
		原　奈都子	江戸川区立小松川第二中学校	主幹教諭
		大塚　隆弘	江東区立第一中学校	主幹教諭
		加藤　拓人	江戸川区立小岩第三中学校	主任教諭
		横山　清貴	中野区立第四中学校	教　諭
		真辺　草平	足立区立六月中学校	教　諭
		藤井　拓也	世田谷区立船橋希望中学校	教　諭
編集部	部　長	滝沢二三雄	江戸川区立松江第六中学校	副校長
	副部長	吉田　義和	練馬区立開進第三中学校	主任教諭
		田中　識啓	江戸川区立小岩第三中学校	主任教諭
		小林　真晴	葛飾区立水元中学校	教　諭
		村田　淳悟	江東区立深川第五中学校	教　諭
		佐藤　勝賢	大田区立南六郷中学校	教　諭
	顧　問	松本　康夫	東村山市立東村山第七中学校	校　長
監　事	会計監査	山田　正隆	江戸川区立松江第五中学校	校　長
	会計監査	大熊　恵子	練馬区立田柄中学校	主幹教諭
相談役		佐々木辰彦	東大和市教育委員会	
		長谷川晋也	墨田区教育委員会	
		勝亦　章行	練馬区教育委員会	
当日の運営補助		狛江市立中学校教育研究会特別活動部員		
		足立区立中学校教育研究会特別活動部員		
		江戸川区立中学校教育研究会特別活動部員		